

同志社大学大学院生命医科学研究科医工学・医情報学専攻及び 医生命システム専攻設置の趣旨及び設置を必要とする理由

1. 設置の基本指針

1.1 設置の趣旨及び必要性

高齢社会への突入並びに少子化現象の長期化が推測されるわが国の近未来においては、個々人に対しては健康と生活の質の向上が、また社会に対しては社会保険や医療・介護などに要する経済的負担の軽減が解決すべき喫緊の課題である。これらの課題の解決には、医療や健康に対して、より広い視野から科学的な根拠に基づき対処ができる高度な知識や技術を持った人材の養成が急務となる。このような人材の養成には、従来の医学、工学、生命科学、情報科学によって築きあげられてきた医工連携分野をさらに発展・高度化させることが必須であると同時に、複眼的な視点から当該研究領域の進展を持続的に推進できる教育研究組織の設置が合わせて必要となる。このような社会的要請に応じて、本学は平成 20 年度に生命医科学部を開設すると同時に生命医科学研究科も合わせて設置した。このうち生命医科学研究科は、平成 21 年度には博士前期課程、平成 22 年度には博士後期課程が完成年度を迎え、さらに生命医科学部は平成 23 年度にその完成年度を迎える。

現在の生命医科学研究科生命医科学専攻は、医工学及び医生命システムの 2 つのコースからなる 1 専攻で構成されており、博士前期課程の入学定員も 20 名と少ない。これは主たる受け入れ学生の出身母体である生命医科学部が完成年度に達していないためであるが、生命医科学部が完成年度を迎える平成 23 年度には、当該学部から生命医科学研究科への進学希望者が多数出てくることが想定される。このため、これに合わせて、本研究科をより高度で専門的な教育研究体制が実施可能な組織へと改組する必要性が生じている。すなわち、生命医科学部で学んだ基礎知識をより高度化して新たな視点から医療と健康に関する未解決の課題を解明し、時代が求める新たな学問分野や産業を創出し、持続的にその成果を運用していく人材を養成するための教育研究体制が必要となる。

このため、本研究科では、博士前期課程、博士後期課程とも、生命医科学専攻に設置されている 2 つのコースをそれぞれ独立させて、医工学・医情報学専攻並びに医生命システム専攻とし、その教育研究目的をより明確に実行できる組織へと改組する。なお、これらの専攻の設置は、いずれもわが国の今後の科学技術発展並びに新しい産業を支える高度な能力を有する研究者や技術者の養成という社会的要求にも応えるものである。

また、現行の生命医科学専攻に設置されている留学生等を対象とした英語のみで修了できる国際科学技術コースは、その設置単位が専攻ごととなるため、設置科目をそれぞれ医工学・医情報学専攻並びに医生命システム専攻に分類配置し、各専攻に独立させて設置することとした（教育課程等の概要参照）。なお、このコースは博士前期課程のみの設置となる。

1.2 教育研究上の理念、目的

本研究科では、生命現象の本質を正しく科学的に理解すると同時に、その制御機構を多角的

な視点から明らかにする教育研究活動を展開する。このことによって、生命科学や脳科学、その周辺に位置する基礎医学、理学、工学、さらには人文科学や社会科学等の分野までをも見渡せる学際的、総合的な研究能力を涵養・啓発させる。また、基礎医学教育を重視した生命医科学部の理念を受け継ぎ、人と社会に役立つ研究を念頭におき、新たな学問分野や産業領域を創出できる人材を養成する。そのため、本研究科の専攻は、深い専門性を有すると同時に、より広い視野からの研究が加速・推進できる組織体制とする。すなわち、生命医科学部での履修成果に応じたより高度な教育研究体制にも対応できるように、医工学・医情報学専攻と医生命システム専攻の2つの専攻を博士前期課程、博士後期課程として設置する。なお、本研究科の教育課程においては、与えられた専門研究課題に関連する問題解決能力並びに研究遂行能力の涵養に加えて、研究課題探求能力、プレゼンテーション技法、ディスカッション能力を身に付けることを重視する。また、これらの能力、技法を実践的に習得させるために、国内外の学会や研究会における発表や関連学術誌への投稿を奨励し、そのための教育研究環境を充実させる。

医工学・医情報学専攻においては、生体機能を十分に理解し、次世代技術を支える高度技術者としての進路を想定し、生命科学分野の学問的進展状況を的確に把握しつつ、医療技術のフロンティア領域である医学と工学のさまざまな複合分野で必要とされる高度技術の研究と教育を展開する。これらの活動を通じて、当該分野のさらなる技術発展に寄与できる技術者を養成するとともに、工学技術を的確に運用し次世代医療技術課題にも柔軟に対応できる能力を有する高度技術者としての総合的知識や技術の付与と啓発を行う。なお、本専攻には、生命医科学部における教育内容との関連をより明確化するために、生体構造のモデル化や人工創成に関連するバイオマテリアル、生体機能の人工的实现へ向けたロボティクスやティッシュエンジニアリング等の研究を中心とした医工学コースと、生体情報の的確な取得に関連する生体計測技術、生体情報の処理機構の模擬に関連する脳神経機構解析や医療情報システム等の研究を中心とした医情報学コースの2つのコースを設置する。またこれに加えて留学生等を対象とした英語科目のみによる学位取得課程である国際科学技術コースも設置する。

医生命システム専攻においては、生命科学を中心とした幅広い医科学並びに医工連携関連知識を理解するとともに、医療関連機関における高度医療システムのさまざまな課題にも対応できる研究者・科学者としての進路を想定している。そのため、ヒトをひとつの生命システムとして捉える視点から生命現象を研究し、その制御機構の解明を目指す教育・研究を展開する。とりわけ、生体内外の刺激に応答、適応する機能システムとして生命を位置づけ、この機能を解明する学問分野を重視する。また、生命システムの機能不全から生じる様々な疾病の発症メカニズムの解明と、その診断、治療、予防方法の開発も視野に入れ、関連周辺医療技術の進展の理解及び生命機能維持機構解明に対する多角的なアプローチを通じて総合的な知識や技術の付与と啓発を行い、当該分野の学術発展に寄与できる研究者や科学者を養成する。本専攻においては、生命現象の本質を総合的に考えるシステム生物学や生命制御の基幹に関連する脳神経機構学、生命現象を分子レベルで解明する遺伝子工学や分子生物学、分子薬理学がそれぞれの教育・研究の基盤となる。なお、本専攻にも留学生を対象とした英語科目のみによる学位取得課程である国際科学技術コースを設置する。

1.3 どのような人材を養成するのか

近未来においては、医療や健康に対する個々人や社会のさらなる関心の高まりが推測されている。そのため、大学には、これらに付随して展開されるより高度な社会システムの構築や産業構造の変化に対応できる人材供給が要求されている。本研究科においては、近年の医工連携の進展並びに生命科学や脳科学の発展を見据えるとともに、これらに対する社会的要請に多様な観点から対応するために、生命現象の本質を正しく科学的に理解し、より広い視野から科学的な対処ができるように、高度な知識や技術を付与する教育研究活動を展開する。この展開を通じて、博士前期課程では、医療に関連する分野はもとよりさまざまな産業分野においても現場における諸課題に的確に対応できる柔軟な総合力と即戦力を有する高度な専門技術者並びに科学者の養成を、また博士後期課程では、博士前期課程で修得した知識と技術を量質ともに深め習熟し、新たな研究手法や学問分野を創造する能力を有して国際社会で活躍できる生命医科学研究者の養成を目指す。すなわち、それぞれの専攻において、下記の人材養成目標を設定する。

医工学・医情報学専攻博士課程前期課程は、生命科学を中心にした医工学並びに医情報学の知識や技術について、生体情報の正確な計測と生体機能の工学的具現化に関する研究をとおして、工学と医学を基盤にした総合的な研究能力を身に付けて、医療技術産業のみならず幅広い産業分野でその基幹を支えて活躍できる中核的技術者を養成することを目的とする。修了後の進路として、医療機器、自動車、電気通信系関連の企業の研究・開発職が考えられる。

医生命システム専攻博士課程前期課程は、生命科学を中心とした医科学の知識や技術について、生命維持の機能とヒト疾患の発病機構に関する研究をとおして、工学と医学を基盤にした総合的な研究能力を身に付けて、創薬や食品を中心とした健康医療分野並びにその周辺医療技術分野産業の高度化に貢献できる専門科学者を養成することを目的とする。修了後の進路として、食品、薬品、医療機器関連の企業・研究機関の研究・開発職が考えられる。

医工学・医情報学専攻博士後期課程は、生命科学を中心にした医工学並びに医情報学の知識や技術について、関連する諸研究への能動的な参画をとおして、知識と技術を質的量的ともに深め、工学技術を的確に医療技術へと展開できる能力を身に付けて、基幹産業分野で次世代を先導する技術者として、あるいは大学や各種研究機関において、わが国の高度医療技術研究を先導し、国際的に高く評価される研究者を養成することを目的とする。修了後の進路として、企業や公的研究機関の研究・開発職、大学教員、教育職等が考えられる。

医生命システム専攻博士後期課程は、生命科学を中心とした医科学の知識や技術について、関連する諸研究への能動的な参画をとおして、知識と技術を質的量的ともに深め、高度な生命医科学知識を高度医療へ展開できる能力を身に付けて、大学や公的研究機関あるいは医療技術関連企業において、わが国の高度医療技術研究を先導し、国際的に高く評価される科学者・研究者を養成することを目的とする。修了後の進路として、企業や公的研究機関の研究・開発職、大学教員、教育職等が考えられる。

なお、博士前期課程の入学予定者の出身母体は、本学生命医科学部を中心に想定しており、事前に各学科で学生に対する進路アンケート調査を行い、大学院への進学希望者が十分に多い

ことを確認している。具体的には、医工学科では、卒業予定者81名中50名(62%)が、医情報学科では卒業予定者61名中37名(61%)が、医生命システム学科では、卒業予定者数62名中37名(60%)が大学院への進学を希望あるいは検討しているという結果を得ている。さらに、この結果に学内の他学部及び学外からの進学者が加わることを考え合わせると、入学定員として設定した医工学・医情報学専攻90名、医生命システム専攻20名の確保は見通しを得ていると考えられる。また、博士後期課程では、医工学・医情報学専攻においては、当該専攻に相当する現行の医工学コースの過去3年間における博士前期課程及び博士後期課程の入学者はそれぞれ110名と7名であり、その比率である6%から勘案すると90名の博士前期課程に対しては5名の入学が見込まれると考えられる。また、医生命システム専攻においては、同様に博士前期課程23名に対して博士後期課程7名の入学者であり、その比率である35%から勘案すると博士前期課程の20名に対しては7名の入学者が見込まれる。しかしながら、当該専攻の発給学位が博士後期課程までの学修者が多い「理学」であること、並びに平成24年度入学生から本学大学院の博士後期課程については奨学金支給による実質授業料無料化の実施が予定されていること等の要因によって定員である12名は確保できると考えている。

また、修了後の社会への進路についても調査機関を通じてアンケート調査を行った。関連業種としては、医療・医薬品関係、化学・化粧品関係、食品関係、繊維関係、電子情報通信関係、機械・製造関係の計25社である。その結果、「企業から見て、生命医科学研究科は、これからの社会にとって必要な学問分野であるか」の問いに対して、25社すべての企業から「必要だと思う」及び「ある程度必要だと思う」との回答を得た。さらに、「同志社大学生命医科学研究科への興味・関心を持つか」の問いに対しては、18社(72.0%)もの企業が「とても興味・関心を持った」及び「ある程度興味・関心を持った」と回答していることから、「生命医科学」の学問分野は社会ニーズが高く、その研究者を育成する同志社大学「生命医科学研究科」への企業からの注目度は、非常に高いと推測できる。これらの結果を受けた、「同志社大学「生命医科学研究科」の修了生を採用したいか」の問いに対しては、19社(76.0%)もの企業が「採用してみたい」及び「採用を検討してみたい」と回答した。このように幅広い業種から前向きな回答を得ていることから、就職先の企業が業種によって限定される可能性は極めて少ないと判断でき、本研究科修了生は、一部が研究者への道を進む博士後期課程も含めて、様々な業種への就職が可能であると推測できる。なお、現行の研究科運営においても研究指導を通じて学生の適性に応じた進路指導が行われており、再編後においても本方式による学生に対する適正なキャリア支援が継続して行われる。

2. 博士前期課程、博士後期課程同時設置の必要性

医工学・医情報学専攻や医生命システム専攻に関連する、医療技術関連分野や生命科学関連分野はその学術的な進展速度が極めて速く、最新の成果を取り入れた学術成果の深化や、医療現場等で必要となる新しいシステムへの技術転化への同時展開が必要不可欠である。それゆえ、博士前期課程を中心にして行われる高度な素養を持つ科学者や技術者の養成と、博士後期課程を中心に展開される学術研究の高度化は表裏一体をなして相補的に運営されることが本研究

科運営にとっては最も機能的であり望ましい。また、これら2つの専攻が博士前期課程、博士後期課程を同時設置することによって、学内外の既設の研究科や学部からも学生を受け入れる環境が整う。そのことによって、多様な組織においてさまざまなレベルで展開されていた当該分野の研究遂行者を明確な目的意識のもとに纏めることが可能となり、充実した研究体制が確立できる。このような研究体制の整備は、社会人リカレント教育の機能も持つことになり、進展が著しいこれらの学問分野に対する多種多様なレベルの社会的な要請にも迅速に対応できることになる。また、さまざまな目的を持った学生が同じ空間を共有して、切磋琢磨して研究活動を行うことによる研究科全体に対する教育的な効果は双方にとって大きい。この観点からも、それぞれの専攻の特性に応じた課程の同時設置は、当該分野の教育・研究の推進に対して極めて有効性が高く意義があると考えられる。

3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

(1) 研究科の名称（研究科全体の目的は変わらないため変更しない）

生命医科学研究科

研究科名称英訳：Graduate School of Life and Medical Sciences

(2) 専攻の名称（専門分野をより明確にするために現在の1専攻を2専攻に再編）

・医工学・医情報学専攻

専攻名称英訳：Major of Biomedical Engineering and Biomedical Information

主として、生命医科学部の医工学科並びに医情報学科の学問領域が対象となる名称とする。具体的には、医工学科における生体材料や生体機能の工学的知見と基礎医学を融合し、その成果を再生医療技術やロボット技術などの医工学分野への展開や、医情報学科における、生体機能とエレクトロニクス・情報工学技術の融合を図り、生命システムを理解して、生体情報の取得・制御の応用展開等が挙げられる。

・医生命システム専攻

専攻名称英訳：Major of Medical Life Systems

主として、生命医科学部の医生命システム学科の学問領域が対象となる名称とする。具体的には、基礎生物学、基礎医学、生理学あるいは薬学に関する基礎、並びに生命システムとしてのヒトについて総合科学的見地からの研究展開等が挙げられる。

(3) コースの名称

医工学・医情報学専攻に、医工学コース、医情報学コースを、並びに博士前期課程にはこれらに加えて国際科学技術コースを、また、医生命システム専攻博士前期課程に国際科学技術コースを置く。

(4) 学位の名称

医工学・医情報学専攻博士課程（前期課程）

修士（工学） Master of Science in Engineering

医工学・医情報学専攻博士課程（後期課程）

博士（工学） Doctor of Philosophy in Engineering

上記（2）の、専攻の名称で挙げた研究分野を表すため、医工学・医情報学専攻では、その共通基盤が工学であることから、博士前期課程、博士後期課程とも学位に付記する専攻分野の名称は「工学」とする。

医生命システム専攻博士課程（前期課程）

修士（理学） Master of Science

医生命システム専攻博士課程（後期課程）

博士（理学） Doctor of Philosophy in Science

上記（2）の、専攻の名称で挙げた研究分野を表すため、医生命システム専攻では、その共通基盤が理学であることから、博士前期課程、博士後期課程とも学位に付記する専攻分野の名称は「理学」とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

4.1 基本指針

本研究科の特色である、生命科学から工学技術までの幅広い研究展開を活かした教育課程を編成し、生命科学、基礎医学、理学、工学の全般を見渡す能力の涵養を重視して、学際的、総合的な研究能力を啓発することを基本指針とする。設置する科目は、授業科目と研究指導科目に区分される。授業科目においては、学生各自の専門性をより向上させるために、各教員の専門分野を中心とした専門科目群を設置する。さらに、これらの専門科目群を横断的に捉えることを目的とした特別講義群を、博士前期課程、博士後期課程ともに設置し、当該分野全般を俯瞰する能力の涵養を目的として設置する。これに加えて、各自の総合的な研究遂行能力を高めることを目的として、博士前期課程にプロジェクト特別演習A、博士後期課程にプロジェクト特別演習Bを設置する。このプロジェクト演習は、授業科目と研究指導科目を有機的に関連させる機能を持つ。すなわち、各自が置かれている環境において実施可能な研究課題の選択・設定から始まり、その課題遂行におけるPDCAサイクル全体を経験させることによって、より広い視点から各自の研究課題の持つ意義をも意識させる指導によって、人材養成の目的である、自立性や創造性と同時に幅広い知識・教養の確立を目指す。

本研究科には、修了後の進路に応じた、医工学・医情報学専攻、医生命システム専攻の2つの専攻を設置する。さらに、医工学・医情報学専攻においては、専門内容をより明確化するために2つのコースを設置する。また、医工学・医情報学専攻、医生命システム専攻の博士前期課程には留学生のための英語のみで修了できる国際科学技術コースを設置する。各専攻における研究領域は下記の通りである。

a) 医工学・医情報学専攻

・医工学コース

生体材料の機能と生体運動の基本メカニズムを理解し、人工物創成及び生体再生に必要な医工学技術の確立を目指す。バイオマテリアル、バイオメカニクス、メディカルロボティクスやティッシュエンジニアリング等を中心とした教育研究を展開する。そのため、博士前期課程及び博士後期課程を通じて授業科目は、これらの人体の構造と機能をより深く学ぶためにそれぞれの研究分野に応じた科目構成となっている。すなわち、博士前期課程においては、専門科目である「特論」科目群を横断する講義内容で構成される生命医科学特論特別講義群、並びに研究指導科目である研究実験との橋渡しの機能を持つプロジェクト特別演習 A を設置し、高度技術者としての専門性並びに幅広い知識と教養を体系的に習得させる。また、博士後期課程においては、それぞれの専門性をより深化させるための「深論」科目群を設置すると同時に、博士前期課程と同様に「深論」特別講義群並びにプロジェクト特別演習 B を設置することによって、研究者としてのより総合的な研究展開ができる素養を身に付けさせる。

・医情報学コース

生体計測を通じて生体の機能と情報との関連を明確に把握し、生体の情報処理機構を医情報システムへと展開し、その工学技術としての確立を目指す。生体の持つさまざまな情報抽出を行う生体計測技術、システムとしての生体情報処理機構の模擬に関連する脳神経機構解析や医療情報システム等を中心とした教育研究を展開する。そのため、博士前期課程及び博士後期課程を通じて授業科目はこれらの生体情報の計測やその結果の情報抽出に関連した研究分野を習得できる科目構成となっている。すなわち医工学コースと同様に専門「特論」科目群を横断する講義内容で構成される生命医科学特論特別講義群、並びに研究指導科目である研究実験との橋渡しの機能を持つプロジェクト特別演習 A を設置して、高度技術者としての専門性を深めると同時に幅広い知識と教養を体系的に身に付けさせる。また、博士後期課程においても医工学コースと同様に、それぞれの専門性をより深化させるための「深論」科目群を設置すると同時に、「深論」特別講義群並びにプロジェクト特別演習 B を設置することによって、研究者としてのより総合的な研究展開ができる素養を身に付けさせる。

・国際科学技術コース

医工学・医情報学分野と同じ研究内容を専攻とする留学生等のためのコースである。留学生は医工学コースあるいは医情報学コースに所属するため、その内容はそれぞれ当該コースの内容と同じであるが、講義はすべて英語で行われる。

b) 医生命システム専攻

ヒトをひとつの生命システムとして統合的に捉えることを基本として、生命現象の本質を総合的に理解するために、システム生物学、脳神経機構学等を中心に教育研究を行うとともに、神経変性疾患や心血管疾患など慢性疾患の発症機構の解明と、その診断、

治療、そして予防方法の確立も視野に入れた教育研究を展開する。また、予防医学的立場から機能性食品学やアンチエイジングなど、社会の関心に直結する教育研究も行う。さらに、生命現象を分子レベルで解明し理解することを基本として、分子生物学的アプローチを中心に、遺伝子工学、タンパク・核酸構造解析学などの手法を用いて、分子薬理学から創薬科学の研究まで発展させる。また、神経生理学や神経情報伝達機構の分子レベルの理解を視野に入れた教育研究を展開する。そのため、本専攻においても博士前期課程並びに博士後期課程を通じて授業科目はこれらの研究分野の特性に応じた科目構成となっている。すなわち、博士前期課程においては、専門科目群である「特論」群を横断する講義内容で構成される生命医科学特論特別講義群を設置する。また、博士後期課程においては、それぞれの専門性をより深化させるための「深論」科目群を設置すると同時に、「深論」特別講義群に加えてプロジェクト特別演習Bを設置することによって、研究者としてのより総合的な研究展開ができる素養を身に付けさせる。

また、本専攻博士前期課程にも医生命システム分野と同じ研究内容を専攻とする留学生等のための国際科学技術コースを設置する。

4.2 教育課程の特色

両専攻を通じて、博士前期課程においては、自専攻に設置されている授業科目を中心として履修科目を選択する。また、他専攻並びに他研究科科目を含めて関連する複数の領域に設置されている授業科目からも受講科目を選択する。これらの選択は、学生の希望進路に応じて担当教員の指導のもと行われる。学生は、自らの修学計画について指導教員の指導を受けることによって、広い視野と多様な視点で問題を捉える能力を涵養することができる。これらは、研究指導の進展に応じて専門性をさらに深める指導が行われる「研究実験」を通じても行われ、学生は研究の進展と同時に進路についての指導も受けることになる。授業科目群はそれぞれの専門において並行して配置しているために履修の配当年次は特に指定はしない。さらに、これらの専門科目群を横断的に結ぶ講義内容で構成される特別講義群を設置し、専門間の関連性について総合的に理解する能力を涵養させて、自身の進路を考える上での指針とさせる。一方、研究指導科目の履修は、研究実験～を順次学年進行で履修する。研究実験及びでは基本的内容について、また及びでは展開的内容について指導を行う。すなわち、研究実験では当該研究分野の背景とその基礎を、研究実験ではその研究手法を、研究実験では応用展開に向けた各自の研究の位置付けを、研究実験では研究成果の社会的な意義を、それぞれ中心に学ぶことになる。

なお、医工学・医情報学専攻においては、自立した次世代中核技術者としての実践的手法の涵養を加速させるために「プロジェクト特別演習A」を必修科目として履修させる。この科目では、研究遂行をプロジェクトとして捉えて各自の研究を進展させるため、各指導教員がプロジェクトとしての研究課題の企画、立案、計画、発表等に関連した実践的な指導を行い、その指導を通じて研究者としての自主自立の素養を教授する。また、医生命システム専攻においては、必修科目である研究実験において、教員あたりの学生数が少ない利点を活かして、緻密で

丁寧な研究指導を行い、学生ひとりひとりの能力を引き出す研究指導を行う。本研究科においては、さまざまな学問分野からの進学者による多様な研究アプローチが想定されるが、このような教育体制を確立させることで、これらに対する適切な対応が実現できる。

これらの各専攻及びコースにおける入学時期は基本的には春期入学のみとするが、両専攻に設置されている国際科学技術コースについては、春及び秋の2期入学とし本研究科への留学希望者受け入れへの対応を図る。

博士後期課程においては、学生は研究課題の深化に加えて複眼的な思考を獲得し、さらには研究者や高度技術者としての自覚を涵養するために、指導教員の指示により、自専攻あるいは自コースの設置授業科目の中から2科目以上を履修する。さらに、それぞれの専攻やコースに設置されている研究指導科目である「特殊研究 ～ 」を履修する。特殊研究は学年進行で順次履修し、博士前期課程と同様に特殊研究 及び では研究者として自立するための基本的内容について、また 及び では展開的内容について指導を行う。さらに、 及び では、より実践的な研究活動手法についての指導が行われる。すなわち、特殊研究 では現行の研究における各自の研究課題の明確な位置付け、特殊研究 では当該研究分野における先行研究及びその結果の俯瞰、特殊研究 では各自の研究の独創性及び展開性についての点検確認、特殊研究 では得られた研究成果の中間まとめとその当該研究領域における位置付けの確認、特殊研究 では得られた成果の社会的な意義とその波及性に関する検討、特殊研究 では得られた成果の実践的な公表手法を、それぞれ中心に学ぶことになる。

また、博士前期課程と同様に、より高度で実践的な教育・研究を推進させるために両専攻ともに必修科目として設置されている「プロジェクト特別演習B」の履修を通じて、幅広い視野に立つ研究者としての素養を養う。特に博士後期課程では、国際社会において活躍できる研究者の養成を目指しており、特殊研究の中で、海外から招いた著名な研究者や活躍中の若手研究者との意見交換や共同研究を経験する機会を与える。さらに、国際会議における研究成果の発表を強く推奨して、各自の研究課題の到達度について国際的視野からの状況を把握させる。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

本研究科では、それぞれの専攻においてわが国の当該分野をリードする研究を展開している教員を多数配置し、その全員が博士学位を有する。また、研究科の特色である「医」との関連も考慮し、教員の出身背景の多様性も考慮し医師資格を持つ教員5名を配置する。さらに、専攻運営の継続性を考慮し、60代、50代、40代教員を医工学・医情報学専攻では、それぞれ5名、3名、6名、また医生命システム専攻では、それぞれ1名、5名、3名と各年代に分布させた年齢構成としている。

各専攻に設置している中核科目は、専任の教授・准教授を中心に担当し、経験に裏打ちされた十分な教育環境を実現する。研究指導は、主指導教員を中心に行うが、これに加えて指導教員は必要に応じて当該研究分野研究と関連のある教員（他専攻並びに他研究科も含む）とも連携して学生に対して複眼的な視点からの研究指導が行える環境を積極的に整備する。また、研究科の新たな研究シーズを創成すると同時に、各教員間の研究内容を積極的に交換する場も兼

ねて、博士後期課程学生の研究進行状況に関する中間発表会を適時開催し、各教員の研究課題について研究科全体としての研究情報の共有を図ると同時に、学生の研究指導に対してもチームワークによる指導体制の確立に努める。これらによって学生は、各自の研究課題に対してより広い視野やさまざまな研究スタイルを学ぶことになる。さらに、本研究科の内容を継承して発展させるために、学校法人同志社の就業規則第 10 条で規定されている定年の 65 歳についても、同志社就業規則附則第 1 条の「第 10 条の本文については、(当分の間) 大学院に係る教授にして本法人が必要と認めたものに限りこれを適用しない」を準用する等、この環境を整備・確立・継承するための最大限の努力を行う。

a) 医工学・医情報学専攻

工学技術が基盤となるため工学教育の経験が豊富な教員で構成するとともに、医生命システム専攻と同様に医師資格を有する教員を配置する。さらに、学内外のさまざまな研究機関との連携を積極的に推進し、設置の趣旨に沿った教育研究体制を構築する。また、高度専門職業人としての技術者の養成が主となるため、現代の医療システム技術全般並びに今後の動向を見渡す経験を有する企業でのプロジェクト経験豊富な技術者との交流も通じて、社会との繋がりを密にした教育体制を構築する。所属する教員の専門は、医工学コースにおいては、生体材料と生体組織の力学的挙動に関する研究、骨格・筋の力学的特性に関する研究、再生医療を視野に入れた生体材料に関する研究、医療ロボットに関する研究、生体における情報の取得・処理・伝送メカニズムに関する研究、エレクトロニクスが生体計測への応用技術の研究、生体内情報伝送における化学に関する研究、脳神経における生体内情報伝送に関する研究等と幅広い構成となっている。これらの教員の専門講義を通じて、学生にはミクロからマクロまでの生体の挙動を計測・解析する技術を習得させる。またこの展開を通じて、生体システムとしてのヒトの特性に適合した製品や環境を創出し、さらには生体情報の基礎、応用を体系的に学習し、幅広い知識と問題解決能力をもつ次世代技術者養成の教育研究を展開する。

b) 医生命システム専攻

ヒトを生命システムの観点から捉えて生命現象を考えることを基本理念としており、医師資格を有する教員を配置し、学生に「医」の意味を考えさせる環境を整備する。そのため、ヒトそのものの現実理解を促進させるべく、医師資格を有する多数の教員を配置する。医師の配置によって、研究の視点がヒト中心へ移行するため、単なる科学技術の対象として生命を扱うのではない、倫理観や社会性にも通じた教育環境を構築できる。これらの教員には連携関係にある医療機関等において臨床実務も継続して行えるように引き続き配慮し、医療現場との密な連携を通じて教育研究の質の恒常的な発展を図る。また、若手教員を充実し、研究現場における学生への丁寧な研究教育を行えるよう配慮している。所属する教員の専門分野は、システム生物学に関する研究、脳神経機構学に関する研究、神経変性疾患や心血管疾病など慢性疾患の発症機構の解明並びにその診断・治療・予防に関する研究、予防医学的立場からの機能性食品学やアンチエイジング

に関する研究、遺伝子工学やタンパク・核酸構造解析学などの手法を用いた分子薬理学から創薬科学の研究等であり、これらの講義を通じて学生は、システムとしてのヒトを総合的に学ぶことになり、これらは研究者や技術者への進路形成には有用な背景となると考えられる。

6．教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

6．1 基本指針

博士前期課程、博士後期課程を通じて、次世代の生命科学、医工連携、脳科学の中核的な技術者や研究者としての使命感を強く自覚させることを基本として、学生それぞれの適性に応じた履修指導を行う。研究指導においては、専門的な素養の涵養のみならず、関連する幅広い学問分野からの視点を持ち、各自の研究課題の社会性についても強く意識して研究に取り組むように指導する。さらに、学生自身の自立した学習計画に供するために、各科目ともその講義概要に加えて、授業時間外に求める学習も含めた授業計画（シラバス）を明示する。

博士前期課程においては、両専攻とも各自の研究課題の社会における位置付けを明確に意識させることを通じて、各自の持つ独創性の重要性を理解させ、これを基盤とした修士論文の作成を指導する。修士論文作成の指導は研究指導科目を中心として履修指導を行う。すなわち、研究実験 Ⅰでは当該研究分野の背景とその基礎理解文献調査並びに基礎知識獲得の確立、研究実験 Ⅱでは研究手法の検討を通じて研究遂行に必要な、実験手順、測定手法等の確立、研究実験 Ⅲでは応用展開に向けて当該研究分野における各自の研究課題の持つ意味の位置付け理解の確立、研究実験 Ⅳでは当該研究で得られた研究成果の持つ社会的意義についての理解深化とその情報発信手法の確立をめざす。これらの研究指導科目は、[資料1]に示すように各科目を学年進行で配当する。また、学生の研究課題並びに希望する進路に応じて履修すべき専門選択科目を指導教授の指示によって各学年に適切に配置して履修させる。このような段階的な研究指導プロセスを経て修士論文を執筆させる。提出された修士学位論文の内容については、公聴会と審査員による厳格な審査を行い、単位取得状況と合わせて研究科委員会で課程修了の可否を判定する。

博士後期課程においては、両専攻とも従来の博士課程ではあまり指導されていない各自の研究課題に関連する新たな発展課題の発掘・選定についても強く意識させ、これを通じて独創性と社会性を両輪に展開できる研究者として自立できるための指導を行う。博士論文作成の指導は、研究指導科目である特殊研究を通じて行う。すなわち、特殊研究 Ⅰでは当該研究分野における各自の研究課題の明確な位置付けの確立、特殊研究 Ⅱでは当該研究分野における先行研究及びその結果の俯瞰並びにこれらの基本原理理解の確立、特殊研究 Ⅲでは各自の研究設定課題に対する独創性及び展開性についての点検確認作業を通じての研究の将来展開の確立、特殊研究 Ⅳでは得られた研究成果の中間まとめとその当該研究領域における成果の位置付けの確認、特殊研究 Ⅴでは得られた成果の社会的な意義とその波及性に関する検討並びに具体的な応用に関する展望の確立、特殊研究 Ⅵでは得られた研究成果の発信・公表を通じた当該研究分野における成果達成度の評価確認を、それぞれ中心に指導する。これらの研究指導科目は、[資料

1]に示すように各科目を学年進行で配当する。また、学生が希望する進路に応じた指導もこれらの研究指導科目を通じて合わせて行う。このような段階的な研究指導プロセスを経て博士学位論文を執筆させる。提出された博士学位論文の内容については、公聴会と審査員による厳格な審査を行い、単位取得状況と合わせて研究科委員会で課程修了の可否を判定する。

なお、研究者・技術者としての総合的な素養の習得は、博士前期課程、博士後期課程でそれぞれ設置する、「プロジェクト特別演習A」及び「プロジェクト特別演習B」を中心に行う。さらに、複数教員による研究室体制の強化を図ることによって、緻密な研究指導を行う。また、企業等の研究者と連携した連携大学院方式による研究指導も展開し、学生のキャリアパス形成を支援する。さらに、より普遍的な立場で各自の研究課題の到達度を把握するために、両課程、両専攻とも研究成果の外部発信を積極的に行う指導を展開する。特に、博士後期課程においては論文執筆等の学会活動を奨励し、併せて国際会議における研究成果の公表も積極的に行わせる。

なお、生命医科学を学ぼうとする強い意志をもった社会人に対しても広く門戸を開くために、本学において既に制度化されている長期履修学生制度を利用した履修も可能とする。

6.2 履修モデル

研究科全体として、医工連携や生命科学に対する総合的な理解を深めることを基本とする。そのため、合同セミナーや研究会を通じて、研究室の枠組みを超えて教員や学生との交流を図り、自己の専門以外の知識や技術の修得を通じて各自の専門以外の領域に興味を持たせるとともに共同研究の進め方を実践的に教育する。また、自分の研究内容を専門外の人間にも正確に伝え、理解させる説明能力と質問への的確な応答の能力を身に付けさせる。また、国際性を身に付けさせるために、海外からの研究者を招喚し、意見交換及び共同研究の機会を与えるとともに、これらを通じて国際学会での発表を積極的に奨励する。博士前期課程、博士後期課程の標準的な履修モデルを[資料2]に示す。それぞれの課程、専攻において研究指導科目を中心とした必修科目の履修年次は、6.1で既に説明している。選択科目は研究課題並びに希望進路に応じて指導教員の指示によって履修する。これらの過程において、研究者あるいは高度専門職としての技術者へ向けて、それぞれに応じた指導が、科目履修及び研究実験を通じて行われる。

a) 医工学・医情報学専攻

博士前期課程修了者の多くは、わが国の次世代産業群を支える高度技術者として各種製造業現場を中心に活躍すると想定される。そのため、科目履修に際しては各自の研究課題の遂行を行うための各コースの「研究実験 ~ (合計8単位)」を中心に履修する。また、各自の研究課題の持つ社会的な意義を理解して課題遂行のための、計画、実行、評価の各ステップを着実に実行する素養を涵養するために「プロジェクト特別演習A」(2単位)を併せて履修する。この科目では、各自の研究遂行をプロジェクトとして捉えて研究を進展させるための実践を通じて研究者としての自主自立の素養を身に付ける。さらに、これらの必修科目に加えて、自コース設置の科目中から各自の研究課題領域の深

化、並びに専門関連分野に対する幅広い素養の習得に必要な科目を選択し、修了要件である合計 30 単位以上を履修する。履修モデルは、医工学コースの学生が医療技術産業の中核的技術者となる場合を想定しているが、専攻分野として自コース設置の材料工学系の科目を選択して履修するとともに、基礎的素養を涵養する関連分野として、医情報学コースの設置科目である「生体計測特論 1」、「同 2」、「非線形現象解析特論」を履修している。なお、修了要件単位数には他研究科及び医生命システム専攻設置科目並びに他コース設置科目を 6 単位まで含んでよい。

博士後期課程修了者の多くは、大学、公立の研究機関、企業の中核研究所等へ就職すると想定される。そのため、各自の専門研究分野に対するさらなる深化を目指して各コース設置の「特殊研究 ～」（合計 12 単位）を履修する。この科目においては、各自の研究課題の持つ社会的な意義や独創性の視点からの検討も深め、中核研究者として自立するための素養の習得に努める。なおこれらの習得は「プロジェクト特別演習 B」（2 単位）を併せて履修することによって加速される。さらに両専攻共通に設置されている生命医科学深論特別講義群からの履修も、異なる視点からの各自の研究課題の実施意義の確認に役立つ。履修モデル 1 は、医情報学コースの学生が、基幹産業で次世代を先導する技術者となる場合を想定しているが、超音波を利用した生体計測手法の研究を行うため、自コース設置の計測系科目である「生体計測深論」を選択して履修している。また、履修モデル 2 は、医工学コースの学生が、わが国の高度医療技術研究を先導し国際的に高く評価される研究者となる場合を想定しているが、再生組織の臨床応用の研究を行うため、自コース設置の再生医療系科目である「再生医療深論」を選択して履修している。

b) 医生命システム専攻

博士前期課程の修了者は、博士後期課程への進学もしくは技術的即戦力として企業を含む各研究機関で活躍することが期待される。そのため、科目履修に際しては各自の研究課題の遂行を行うための「医生命システム研究実験 ～」（合計 8 単位）を中心に履修する。これらの必修科目に加えて、医生命システム専攻設置の科目中から各自の研究課題領域の深化、並びに専門関連分野に対する幅広い素養の習得に必要な科目を選択し、修了要件である合計 30 単位以上を履修する。履修モデルは、創薬や食品を中心とした健康医療分野並びにその周辺医療技術分野産業の高度化に貢献できる専門科学者となる場合を想定しているが、自専攻設置の創薬・食品系科目を選択して履修するとともに、基礎的素養を涵養する関連科目として、自専攻設置科目である「システム生物学特論」、両専攻共通設置科目である「生命医科学特論特別講義 A 1」並びに他専攻設置科目である「医療情報学特論」を履修している。なお、修了要件単位数には他研究科及び医工学・医情報学専攻設置科目を 8 単位まで含んでよい。

博士後期課程修了者の多くは、大学、公立の研究機関、企業の中核研究所等へ就職すると想定される。そのため、各自の専門研究分野に対するさらなる深化を目指して「プ

プロジェクト特別演習B」(2単位)及び「医生命システム特殊研究 ～ 」(合計12単位)を履修する。この科目においては、各自の研究課題の持つ社会的な意義や独創性の視点からの検討も深め、中核研究者として自立するための素養の習得に努める。履修モデルは、大学や公的研究機関あるいは医療技術関連企業において、わが国の高度医療技術研究を先導し、国際的に高く評価される科学者・研究者となる場合を想定しているが、再生医学の臨床応用の研究を行うため、自コース設置の「臨床再生医学深論」を選択して履修している。

6.3 学位論文の審査・公表方法

博士前期課程、博士後期課程とも、主査及び複数名の副査による査読、並びに公聴会における質疑を通じてその内容を審査することによって、審査の透明性を保障する。また、博士後期課程の副査については本研究科外からも積極的に登用し、審査の厳格性と客観性を担保する。これらの審査委員はすべて研究科委員会において審議・決定する。また、論文審査結果は研究科委員会においてその内容を審議し、学位授与の可否を決定する。審査の視点は修士論文においては、その成果の妥当性並びに有用性を、博士論文についてはこれらに加えて独創性及び展開性を中心とする。なお学位論文の提出要件として、修士論文については、当該研究分野の関連学会における発表1件以上を、博士論文については当該研究分野の査読付学術誌に1件以上を求め、この基準を学生に明示する。また、学位論文に関連する研究成果は各課題に関連する学術雑誌等に公表しその成果の社会還元を図る。なお、本学では学術リポジトリを構築し、研究成果等の学術コンテンツの積極的な公開を行っている。博士学位論文については、論文要旨・論文審査要旨等は全て大学ホームページで公開するとともに、論文の全文は本人からの申請に基づき本学ホームページで公開する予定である。

6.4 修了要件

a) 医工学・医情報学専攻 博士前期課程

(医工学コース・医情報学コース)

博士課程(前期課程)に2年以上在学していること。

ただし、優れた研究業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第7条の規定により、2年未満の在学であっても修了できる。

自コースの「研究実験 ～ 」を履修していること。

なお、ただし書きを適用して2年未満の在学で修了する者の研究実験の履修については、自コースの「研究実験 ～ 」のみの履修とし、修士論文審査を含め、総合的に判断する。

自コースの「研究実験 ～ 」の8単位、「プロジェクト特別演習A」の2単位、自コース設置科目からの14単位を含めて合計30単位以上を履修していること。

なお書きを適用する者については、自コースの「研究実験 ～ 」の4単位、「プロジェクト特別演習A」の2単位、自コース設置科目からの18単位を含めて合計30単

位以上履修していること。

修士論文を提出し最終試験に合格すること。

研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通じていること。

(国際科学技術コース)

博士課程(前期課程)に2年以上在学していること。

指導教員の指示により、「Research and Experiments in Biomedical Information (E)～(E)」の8単位、A群類から8単位以上、A群類から6単位以上、B群から4単位以上を含めて合計30単位以上履修すること。なお、A群類は8単位まで、B群は6単位までを修了単位として算入する。また、医工学コース及び医情報学コースの授業科目及び医生命システム専攻の授業科目(A群類科目及びB群科目を除く)を修得した場合は、A群類科目の単位に算入する。また理工学研究科(現工学研究科(平成24年度名称変更予定))国際科学技術コースの設置科目を修得した場合も、A群類科目の単位に算入する。

修士論文を提出し最終試験に合格すること。

研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通じていること。

b) 医生命システム専攻 博士前期課程

博士課程(前期課程)に2年以上在学していること。

ただし、優れた研究業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第7条の規定により、2年未満の在学であっても修了できる。

「医生命システム研究実験～」を履修していること。

なお、ただし書きを適用して2年未満の在学で修了する者の医生命システム研究実験の履修については、「医生命システム研究実験～」のみの履修とし、修士論文審査を含め、総合的に判断する。

「医生命システム研究実験～」の8単位、自専攻設置科目(国際科学技術コースを除く)からの14単位を含めて合計30単位以上履修していること。

なお書きを適用する者については、「医生命システム研究実験～」の4単位、自専攻設置科目(国際科学技術コースを除く)からの18単位を含めて合計30単位以上履修していること。

修士論文を提出し最終試験に合格すること。

研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通じていること。

(国際科学技術コース)

博士課程(前期課程)に2年以上在学していること。

指導教員の指示により、「Research and Experiments in Medical Life Systems (E)～(E)」の8単位、A群類から8単位以上、A群類から6単位以上、B群から4単位以上を含めて合計30単位以上履修すること。なお、A群類は8単位まで、B群は6単位までを修了単位として算入する。また、医生命システム専攻の授業科目(A

群 類科目及びB群科目を除く)及び医工学・医情報学専攻の授業科目(A群 類科目及びB群科目を除く)を修得した場合は、A群 類科目の単位に算入する。また理工学研究科国際科学技術コースの設置科目を修得した場合も、A群 類科目の単位に算入する。

修士論文を提出し最終試験に合格すること。

研究に必要な1ヶ国以上の外国語に通じていること。

c) 医工学・医情報学専攻、医生命システム専攻(両専攻共通) 博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学していること。ただし、優れた研究業績をあげた者については、同志社大学大学院学則第7条の規定により、3年未満の在学であっても修了できる。

各専攻あるいは自コースの「特殊研究 ~」12単位、「プロジェクト特別演習B」2単位を含めて、自専攻あるいは自コース設置の科目から16単位以上を履修していること。なお、 のただし書きを適用して3年未満の在学で修了する場合の「特殊研究 ~」の履修については上記によらず博士論文審査を含めて総合的に判断する。

博士論文を提出し最終試験に合格すること。

研究に必要な1ヶ国以上の外国語によく通じていること。

6.5 長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了する長期履修学生制度を設ける。希望者の申し出により、研究科委員会で審議し承認する。長期履修の期間は、博士前期課程においては、1年を単位として3年以上6年まで、博士後期課程においては、1年を単位として4年以上6年までとする。

6.6 研究の倫理審査体制

本学では、[資料3]に示すとおり、学術研究の信頼性と公平性を確保することを目的とし、研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準を「同志社大学研究倫理規準」として定めている。

これに基づき、「同志社大学研究倫理委員会規程」[資料4]を制定し、研究倫理に関する事項について審議、調査、検討するため、「同志社大学研究倫理委員会」を設置して、厳格な研究の倫理審査体制を確立している。

また、人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を「同志社大学「人を対象とする研究」倫理規準」[資料5]を定めている。

これに基づき、「同志社大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会規程」[資料6]を制定し、同委員会で人を対象とする研究の実施計画及び出版公表計画等の審査を行っている。

7. 施設・設備等の整備計画

7.1 基本指針

本研究科において、機能的な教育・研究が実践されるためにはインフラとしての施設・設備が十分に整備されている必要がある。また、基盤の整備においては、その効率的な運用を図ると同時に研究領域の将来進展も見通した計画も必要となる。本研究科は、医工学・医情報学専攻及び医生命システム専攻に必要な施設・設備については平成20年度の研究科設置時において検討し、建物・研究装置等の施設・設備は既に準備している。

7.2 校地、校舎等の整備計画

本研究科は総面積79万 m^2 の広大な京田辺校地に設置されている。京田辺校地には、工学研究科、文化情報学研究科、心理学研究科及びスポーツ健康科学研究科が設置されており、これらの研究科群との連携を密に図りながら教育研究を推進できる。

本研究科の教育研究棟は、医心館と称している。医心館は、延床面積約(16,814 m^2)、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上6階の教育研究棟であり、大きく北棟・南棟・特殊実験棟に分かれる。北棟には医工学・医情報学専攻、南棟には医生命システム専攻の研究室及び実験室を配置し、特殊実験棟には、ラジオアイソトープ(RI)施設並びに動物実験施設を配置する。平面図については[資料7]に示す。

北棟、南棟内の実験室の種別は、実験室大(約110 m^2)34室で合計3,812.4 m^2 ・実験室小(約55 m^2)39室で合計2,148.8 m^2 ・共同実験室(34.5~329.1 m^2)14室で合計1,203.6 m^2 に分かれる。これらの実験室は、さまざまな用途に使用することを想定して、標準仕様の実験室に加えて、重量物対応、フリーアクセス、ドラフトチャンバー対応、微小電位計測対応等の各種測定機器類の設置に合わせた仕様の実験室も設けている。これらの施設を研究目的に応じて使い分けることによって、機能的な教育・研究の実践を行う環境が整備されている。

また、[資料8]に示すとおり、実験室の中に大学院生用の什器(書棚、机、椅子等)を配置し、学生の自主自立研究環境も整備している。なお、各専攻・コース別の室数、面積、収容能力は次のとおりである。医工学コースは、13室、718.3 m^2 、133名の収容能力、医情報学コースは、13室、720.1 m^2 、152名の収容能力、医生命システム専攻では、21室、1,158.6 m^2 、77名の収容能力である。

なお、教員個人研究室等の研究室は1室約23 m^2 で52室あり合計1,219.9 m^2 である。輪講室は大1室137.9 m^2 、小1室112.4 m^2 、会議室は29.3 m^2 1室と47.9 m^2 1室である。また、生命医科学部・生命医科学研究科事務室(256.8 m^2)と生命医科学部長・生命医科学研究科長(兼任)室(30.3 m^2)を設置している。

特殊実験棟は動物実験室とRI実験室に分かれており、北棟、南棟とは構造的にも切り離されて独立的に安全な管理運営が行えるように配置されている。動物実験室は、Specific Pathogen Free (SPF)実験エリア(実験室、マウス室等)、Conventional (CONV)実験エリア(実験室、マウス室等)、クリーン準備室、洗浄室、倉庫などから構成される。ここでは、病原菌感染のないマウスの飼育、実験及び遺伝子改変マウス等を用いて遺伝子の機能解析等の研究・

実験を行う。また、R I 実験施設は、実験室（3室）、測定室、廃棄物保管室、処置室、汚染検査室、貯蔵室等から構成される。ここでは、35S、32P、125I、3H などの核種を用いた実験を行う。なお本 R I 実験室の特徴として、一般的な R I 使用の *in vitro* 実験に加え、R I を実験動物に投与し薬理的動態を調べる実験なども行える仕様としている。

なお、これら各研究施設に対しては、安全管理に努めるとともに、入退室管理を含めたセキュリティ整備を十分に行い、教育・研究の作業環境の向上を図っている。特に、動物飼育舎や R I 施設等については、各種講習会を通じてこれら施設の安全利用を周知させるとともに、3重のセキュリティシステムを装備している。また、従事者の感染予防に対する健康管理も含めて施設の維持管理を行う。

7.3 図書等の資料及び図書館の整備計画

学生の教育へ資するために生命医科学関連の専門図書、教科書、一般書も既に平成 20 年の研究科開設時に整備済みである。また、その後も整備を継続して続けている。各専攻で必要となる専門雑誌類は全専攻共通の雑誌を除いて、基本的には各教員がそれぞれの研究室に保管し、必要に応じて学生や他の教員の要求に対応している。なお、近年の専門雑誌類の電子ジャーナル化に対応するために、専門雑誌類は電子ジャーナルもしくはデータベースとすることを基本とし、設置する学術雑誌は、関連研究領域を代表する雑誌類を揃えている。タイトル数は、49 タイトルであり、具体的な学術雑誌名は [資料 9] に示す。

なお、京田辺校地の全学共通の図書館であるラーネット記念図書館（席数：1520 席）にも学生教育用図書を設置している。図書の冊数は 437 冊であり、具体的な図書名を [資料 10] に示す。

ラーネット記念図書館には閲覧席以外にも自学自習用のパソコン室やグループ学習室があり、図書資料の利用だけでなくグループディスカッションやプレゼンテーション準備の場として活用されている。レファレンスカウンターでは文献調査、相互利用サービスの提供だけでなく、データベース、電子ジャーナルといった電子リソースの利用指導、情報探索指導が行われている。また、図書館員がゼミに出向き情報探索指導を講義するプログラムも用意されている。

他大学の所蔵図書については、「私立大学図書館協会京都地区協議会共通閲覧証協定」に基づき、42 大学における共通利用が図られている。また、財団法人大学コンソーシアム京都共通閲覧システム所属の 30 大学の図書等が、所定の手続きにより閲覧が可能であり、一部大学では貸し出しも可能であるため、それらのシステムを有効利用する。

8. 基礎となる学部との関係

本学京田辺校地には平成 20 年に、本研究科と同時に、生命医科学部とスポーツ健康科学部が設置され、さらには同年には工学部を理工学部へと改組している。また、平成 21 年には心理学部並びに心理学研究科が、平成 22 年度にはスポーツ健康科学研究科が設置されている。このうち、生命医科学部が本研究科の基礎となる主たる学部となる。また、入学者や研究分野が関連する学部としては、理工学部、心理学部、スポーツ健康科学部が挙げられる。関連する

研究科としては、理工学研究科(平成24年度に工学研究科から名称変更予定)、心理学研究科、スポーツ健康科学研究科、さらには平成24年度に設置予定の一貫制博士課程の脳科学研究科が挙げられる。このうち、理工学部並びに理工学研究科は、工学全般や数理解析分野等の研究を通じて、心理学部並びに心理学研究科及び脳科学研究科は、生体システムや生体内の情報処理分野等の研究を通じて、スポーツ健康科学部並びにスポーツ健康科学研究科は、生体の構造機能や分泌や循環等の生体システム反応に関する研究等を通じて本研究科と関連があり、これらの学内連携は、本研究科の研究領域を広めると同時に学問内容の深化に大きく寄与すると期待できる。具体的には、本研究科の医工学・医情報学専攻の学問領域との関係は、生命医科学部においては、医用ロボット、医用材料、医用センサー、生物情報学等が、理工学部並びに同研究科においては、生体材料、認知科学等が、さらにはスポーツ健康科学部並びに同研究科においては、スポーツ・バイオメカニクス等が挙げられる。また、医生命システム専攻の学問領域との関係は、生命医科学部においては、再生医学、創薬科学、遺伝情報学等が、理工学部並びに同研究科においては、生命化学、遺伝子科学等が、心理学部並びに同研究科においては、生理心理学、認知・感情・適応、発達心理学等が、脳研究科においては、脳神経科学、発達加齢脳、記憶・学習等が挙げられる。これらの関係を [資料11] に示す。

9. 入学者選抜の概要

9.1 基本指針

本研究科の人材養成の目的である「複雑な生命現象の本質を正しく科学的に理解すると同時に、その制御機構を多角的な視点から明らかにすること」のできる素養を有する者を選抜の対象とする。また、大学院教育に対する社会からの多様な期待に対応するため、さまざまな学修歴を持つ学生を広く選抜することとし、研究または実務経験を有し、さらに高度な学術の習得を希望する社会人、当該研究分野に突出した能力を有する学部在籍学生、わが国の最先端の科学技術を学びたいとする強い意欲を有する外国人留学生のための入試をそれぞれ実施する。これによって、幅広い出身層で構成される学習環境が実現できるため、学生はより広い視野からの思考能力を涵養できる。

9.2 アドミッションポリシー

博士課程(前期課程)は、生命に関連する幅広い分野を対象とし、医工学並びに医科学に関する高度な知識と技術を有し、それらを自ら運用することによって課題解決し、国際的なレベルでの社会貢献ができる人材の養成を目的とする。そのために、次のような学生を求める。

博士課程(前期課程)の求める学生像

1. 工学と医学を基盤とした総合的な知識と技術を体系的に習得している学生。
2. 課題解決のための論理的で柔軟な思考能力を有する学生。
3. 英語によるコミュニケーション能力を身に付けている学生。

博士課程(後期課程)は、生命の本質を正しく理解できるとともに、医工学並びに医科学に関する先端的な研究を独創的な視点から推進できる能力を有し、その研究によって得た成果を

国際的にも高いレベルで自ら運用して社会に還元できる人材の養成を目的とする。そのために、次のような学生を求める。

博士課程（後期課程）の求める学生像

- 1．医工学並びに医科学に関する先端的な知識と技術の運用に習熟している学生。
- 2．先端的な研究を推進するための論理的かつ柔軟な思考能力を有する学生。
- 3．国際的な社会貢献を目指した先端的な情報の発信能力を有する学生。

9.3 入学定員並びに入学資格等

(1) 入学定員 () は収容定員

医工学・医情報学専攻

博士課程前期課程 90名(180名)

博士課程後期課程 2名(6名)

医生命システム専攻

博士課程前期課程 20名(40名)

博士課程後期課程 12名(36名)

(2) 入学資格

次のいずれかに該当するものとする。

博士前期課程

大学を卒業した者

大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと本大学院が認めたもの

大学院への入学に関し、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第1項に規定された者

博士後期課程

修士の学位又は専門職学位を得た者

大学院への入学に関し、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第156条に規定された者

(3) 入学者の選抜方法

入学者の選抜は次の通りである。さらに、多様な学修歴を持つ社会人の大学院教育に対する期待や産業界などのニーズといった社会的要請に応え積極的に社会人を受け入れるために社会人入試を行う。また、同志社建学の精神のひとつである国際主義を具現化するために外国人留学生入試も実施する。

なお、一般選抜入試において入学定員分を募集し、研究指導上余裕がある場合、社会人特別選抜入試、外国人留学生入試で若干名を入学させる。

博士前期課程

a) 一般選抜入試

学部卒業生、卒業予定者及び飛び入学志願者を対象として、専門科目、英語並びに面接により選抜する。専門科目は、各専攻に関連するさまざまな領域からなる複数の科目で構成される。また面接によって受験者の研究計画を詳しく聴取し評価する。

飛び入学については、受験年度の3月末において、大学在学期間が3年間に達する者で、修得単位数と学業成績が、優れている者を対象に行う。

b) 社会人特別選抜入試

社会人を対象として、関係論文、英語並びに面接（口頭試問を含む）により選抜する。面接は、生命医科学に関連するさまざまな領域に関して受験者の能力を見極める試問を口頭で行い、その対応内容を評価する。またこれに併せて受験者の研究計画を詳しく聴取してその内容についても評価する。

なお、本入試においては、研究または実務経験をもつ多様な能力を有する社会人を受け入れることを目的としているため、出願資格は、教育機関、研究機関、企業、医療機関等において、正規職員として研究・開発等に1年以上従事し、所属長等より推薦を受けた者を基本とし、出願資格の適否については事前に研究科において審査する。

c) 外国人留学生入試

外国人留学生を対象として、面接（口頭試問を含む）小論文により選抜する。面接は、生命医科学に関連するさまざまな領域に関して受験者の能力を見極める試問を口頭で行い、その対応内容を評価する。またこれに併せて受験者の研究計画を詳しく聴取してその内容についても評価する。

小論文は、日本語および英語での解答を求める。このことにより、受験者の日本語の読解並びに記述能力を評価し、その結果は学位取得の資格試験としても用いる。また、口頭試問においても、受験者の日本語会話能力について評価する。さらに、英語で解答を求めることによって、生命医科学研究に最低限必要な英語能力を有していることを審査する。なお、各国において教育制度が異なるため、受験資格の適否については事前に研究科において審査する。

本研究科に入学した留学生は、研究科設置科目を履修すると共に、日本語・日本文化教育センターの提供する日本語及び日本の文化に関する科目も必要に応じて履修することにより、日本語能力の向上及び日本文化の理解が可能となる。

博士後期課程

a) 一般選抜入試

大学院博士前期（修士）課程修了者及び予定者を対象として、関係論文、英語並びに面接（口頭試問を含む）により選抜する。関係論文は、提出された修士論文に関連した内容についての説明を求め、それを評価する。さらに面接においては、入学後に計画している研究課題に対して試問しその対応を評価する。

b) 社会人特別選抜入試

社会人を対象として、関係論文、英語並びに面接（口頭試問を含む）により選抜する。面接は、受験者の研究予定課題に関する内容を中心として口頭試問で行い、後期課程における研究遂行能力を評価する。また、研究計画についてもその内容を詳しく聴取し、研究計画の妥当性の観点からも評価する。

研究または実務経験をもつ多様な能力を有する社会人を受け入れることを目的としているため、出願資格は、教育機関、研究機関、企業、医療機関等において、正規職員として研究・開発等に原則として2年以上従事し、所属長等より推薦を受けた者を基本とし、出願資格の適否については事前に研究科において審査する。

c) 外国人留学生入試

外国人留学生を対象として、面接（口頭試問を含む）小論文により選抜する。面接は、生命医科学に関連する基本事項、さらに受験者の研究予定課題を中心として試問を口頭で行い、その対応内容を評価する。またこれに併せて受験者の研究計画についても詳しく聴取し、その妥当性についても評価する。

小論文は、日本語および英語での解答を求める。このことにより、受験者の日本語の読解並びに記述能力を評価し、さらに、口頭試問において、受験者の日本語会話能力について評価して、これらを総合して、学位取得のための資格試験としても評価する。また、英語で解答を求めることによって、博士課程後期課程における生命医科学研究に最低限必要な英語能力を有していることを審査する。なお、各国において教育制度が異なるため、受験資格の適否については事前に研究科において審査する。

日本語能力の向上等については、上記 博士前期課程と同様である。

10. 管理運営

同志社大学大学院学則第32条では、学部を基礎としない独立研究科には研究科教授会を、学部を基礎とする研究科には研究科委員会を置く事が規定され、審議事項についても、教育研究に関する事項、授業及び研究指導に関する事項、教員の人事に関する事項、学位論文審査に関する事項等 具体的に規定されている。また、第33条では、大学院の学務は、学長が総括し、研究科の学務は、当該学部長が研究科長として管掌する旨規定されている。

この大学院学則の規定に基づき、本研究科においても学部長たる研究科長を中心に研究科の教育・研究及び管理・運営に係る事項を研究科委員会で審議してきている。なお、研究科委員会の構成員は、研究科の専任教員として、教授会構成員とは一線を画し、研究科の独立性を保つこととする。研究科委員会は、現在、月に1～2回開催し、入学試験要項、入学試験判定、博士課程(前期課程・後期課程)修了判定、教員人件、学則改正、学籍異動等を審議している。

ただし、医心館において、学部の実験施設と共同運営になること及び大学からの予算の一部が学部・研究科として一括して配分されること等に鑑み、必要に応じ、研究科も関連する事項であっても、教授会で審議するなど、審議事項に応じて、研究会委員会と教授会の機能分担を適切に行っており今後もこの体制を継承する予定である。「生命医科学研究科委員会規程」は[資料12]のとおりである。

研究科委員会以外には、研究科長と大学院専攻教務主任により構成する「生命医科学研究科主任会」を組織し、研究科委員会提出事項の予備調整、整理、審査や研究科委員会決定事項の実施を行なう(「大学院生命医科学研究科主任会に関する申合せ」は[資料13]のとおりである)。それに加え、本研究科の活動を組織的に点検・評価し、その結果を踏まえて改善策を検討して教育・研究の質的向上を図るために、「生命医科学部・生命医科学研究科自己点検・評価委員会」を設置する。また、組織的なFD活動を検討し、より良い研究科運営のために「生命医科学研究科FD委員会」を設置する。両委員会の活動内容については、次項以降で詳述する。

なお、事務体制については、生命医科学部・生命医科学研究科事務室として一体の体制で運営している。研究科に係る事項の事務処理については、管理職である事務長を中心に、一般職の業務分担により、大学院業務を主に担当する者を配置し、遺漏無く遂行しており再編後もこの体制を継承する予定である。

11. 自己点検・評価

同志社大学では、平成6年7月に「同志社大学自己点検・評価規程」を制定し、自己点検・評価実施体制を整えるとともに、自己点検・評価の活用を大学全体として推進している。また、過去3回に亘り全学的な自己点検・評価を実施し、平成8年と平成12年並びに平成17年に「教育研究自己点検・評価報告書」を発行している。また、平成18年度には文部科学大臣の認証を受けた(財)大学基準協会の相互評価並びに認証評価を受け、(財)大学基準協会の大学基準への適合が認定された。なお、平成25年度には同協会の認証評価を受ける予定である。

このような全学体制のもとに、生命医科学研究科においてもその設立時に、「生命医科学部・生命医科学研究科自己点検・評価委員会規程」[資料14]を制定し、「生命医科学研究科自己点検・評価委員会」を設置して、本研究科に関する下記の自己点検・評価項目について、毎年、点検・評価作業を行っている。なお、平成24年度にその結果を冊子として発刊すると同時に大学のホームページ上に公表予定である。

- (1) 同志社大学大学院生命医科学研究科の理念・目的に関する事項
- (2) 教育活動に関する事項

- (3) 研究活動に関する事項
- (4) 学生生活に関する事項
- (5) 学術情報に関する事項
- (6) 大学間連携・国際交流に関する事項
- (7) 施設・設備に関する事項
- (8) 社会との連携に関する事項
- (9) 管理運営に関する事項

特に教育活動については、恒常的にカリキュラム、学生の学習環境、研究指導体制を組織的に点検するために、「学生による大学院教育評価アンケート」を実施し、学生の声を教育改善の糧としている。自己点検・評価の結果については、本学の実施体制に準じて研究科委員会において検討し、問題点についてはその都度速やかに対応するとともに、情報公開についても速やかに行う。これらの自己点検・評価を通じて、本研究科の研究・教育の質的向上を図るとともにこれらの結果を研究科の将来計画に反映させる。なお、点検・評価の結果は、同志社大学全体の「教育研究自己点検・評価報告書」にまとめ、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を定期的に受けるものとする。

12. 情報の公表

同志社大学では、従来から学生や社会に対して、大学の教育研究活動の内容を積極的に大学ホームページを通じて公表してきている。これは、学生に対しては、大学側が正確な情報を提供することにより、それに基づく健全な学修を期待するという考えによるものである。また、社会に対しては、本学が建学の精神に基づく教育研究活動を誠実に継続していることを説明し、地域に開かれた大学として受け入れてもらうことを目指している。さらに、本学の教育理念のひとつである国際主義を具現化するために、海外に向けても英語、中国語、韓国語で大学情報を発信している。

なお、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定められた以下の項目についても、いずれも法令改正前から大学ホームページに掲載している。大学の基礎的な数値データについては、毎年大学基礎データ集を作成し、その内容を PDF ファイル化して公表し、数値情報以外の重要情報は、個別のページを作成して公表している。平成 23 年 4 月現在の各項目の掲載内容と掲載アドレスは以下のとおりである。

大学の教育研究上の目的に関すること

- ・大学の建学の精神と教育理念

ホーム > 大学紹介 > 概要：良心教育と教育理念

- ・大学全体の教育目標

ホーム > 大学紹介 > 概要：同志社大学教育目標と学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

- ・学部・学科、研究科・専攻の人材養成目的（学則に記載）

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>

教育研究上の基本組織に関すること

- ・教育研究上の基本組織（学則に記載）

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>

- ・大学組織図

ホーム > 大学紹介 > 概要：組織図 > 大学組織図

- ・教育研究組織（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd1100.pdf

教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・所属別教員数、専任教員年齢構成（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd4100.pdf

- ・専任教員が保有する学位及び業績（研究者情報データベース）

<http://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/index.php>

入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・学部アドミッション・ポリシー

ホーム > 同志社大学で学びたい方 | 学部入試 > 入試情報：アドミッション・ポリシー

- ・研究科アドミッション・ポリシー

ホーム > 同志社大学で学びたい方 | 大学院 > アドミッション・ポリシー

- ・志願者・受験者・合格者・入学者数（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd2200.pdf

- ・収容定員・学生現員表（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd2100.pdf

- ・学部卒業生数、大学院における学位授与状況（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd2400.pdf

- ・学部・研究科別就職状況、卒業生進路状況一覧（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd2700.pdf

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

- ・学部・学科、研究科・専攻の設置科目（学則に記載）

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>

- ・各科目の講義概要、授業方法、到達目標、授業計画、成績評価基準、テキスト、参考文献等（シラバスデータベース）

<http://syllabus.doshisha.ac.jp/>

学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・成績評価方法について

ホーム > 在学生 > 授業・履修・試験：学業成績

- ・科目毎の成績評価基準（シラバスデータベース）

<http://syllabus.doshisha.ac.jp/>

- ・卒業または修了認定基準（学則に記載）

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>

校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・校地・校舎の概要、校舎配置図、校舎等建物概要、教室の設備、情報処理環境の状況（大基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd4200.pdf

- ・図書館の案内

<http://www.doshisha.ac.jp/library/>

- ・学術情報の所有・利用状況（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf/dd3400.pdf

- ・情報教育環境の案内

<http://www.doshisha.ac.jp/it/>

授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料（学則に記載）

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>

大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・学修支援システム DUET（正課教育支援）

<https://duet.doshisha.ac.jp/info/index.jsp>

- ・課外活動の案内

ホーム > 在学生 > 学生支援：課外活動（クラブ・サークル）

- ・障がい学生支援制度

ホーム > 在学生 > 学生支援：障がい学生支援制度

- ・学生支援センターの個別学生支援プログラム（S-cube のプログラム）

ホーム > 在学生 > 学生支援：S-cube のプログラム

- ・奨学金制度、学費の延分納

ホーム > 在学生 > 学生支援：奨学金、学費延納・分納

・アルバイト紹介

ホーム > 在学生 > 学生支援：アルバイト紹介

・下宿・寮の案内

ホーム > 在学生 > 学生支援：下宿紹介・寮

・保健センターの案内

ホーム > 大学紹介 > 施設利用案内：保健センター

・カウンセリングセンターの案内

ホーム > 在学生 > 健康管理（心とからだ）：カウンセリング

・キャリア形成支援・就職に関する情報提供

ホーム > キャリア形成支援・就職

その他（教育上の目的に応じ学生が取得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

・学部・学科、研究科・専攻の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

ホーム > 大学紹介 > 概要：同志社大学教育目標と学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

・学則、大学院学則、専門職大学院学則、法科大学院学則、学部一般内規、大学院一般内規、学位規程

ホーム > 在学生 > 授業・履修・試験：学則・一般内規

・設置認可申請書（各学部・研究科のホームページに掲載）

<http://sports.doshisha.ac.jp/graduate/index.php#to>

・設置計画履行状況報告書（各学部・研究科のホームページに掲載）

<http://sports.doshisha.ac.jp/graduate/pdf/20101006.pdf>

・自己点検・評価報告書

ホーム > 大学紹介 > 概要：大学評価 > 2005（平成17）年度 自己点検・評価報告書

・認証評価の結果

<http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/accredit/pdf/accredit01.pdf>

なお、誰もがこれらの情報を容易に参照することができるよう、大学ホームページのトップページに「同志社大学情報公開の促進」というバナーを設け、そこから、各公開情報へのリンクを集約した「情報公開の促進」のページにアクセスできるよう配慮している。

以上のほか、本学では特に学生に対する情報公開を重視しており、授業情報データベースを構築して、学修支援システムを介して、講義概要及びシラバス、成績評価（GPA）分布、図書館蔵書情報、科目担当者による授業講評等の授業に関連する情報を提供している。さらに、授業評価アンケート結果や上記以外の学生生活に関する情報も提供し、学生の学修活動の適正な環境づくりに貢献している。また、研究者情報データベースのデータは独立行政法人科学技術振興機構へも提供している。研究者情報については、研究者紹介集を発行し社会との連携を図っている。

生命医科学研究科においても、独自のホームページを構築し、研究科のコンセプト、人材養成の指針、教員と研究内容、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、研究科設置の際の「設置届出書」、「設置計画履行状況報告書」を公開しており、今後とも積極的に研究科の情報を公表していく。

13. 教員の資質の維持向上の方策

研究科の教育研究レベルの維持向上には教員の自己啓発が必須であるとする基本的な考えの下に、さまざまな観点から教員資質の向上を図る。本学では、大学全体の組織として教育開発センターを設置し、教育活動支援体制の整備にとどまらず、全学的な視点から新しい教育システムの開発、教育効果測定方法の開発、教育方法の改善等について研究し、企画立案を行っている。特に、センターに設置されたFD支援部会や大学院教育検討部会と連携を深め、本研究科においても積極的にFDを推進する。このため、[資料15]のとおり、「生命医科学研究科FD委員会規程」を制定し、「生命医科学研究科FD委員会」において、これらFD関連事項についても検討し、4年毎に自己点検・評価として公表することとしている。これらの基礎資料とするために、年度ごとに教育研究活動実績の報告を各教員に求める。報告内容は、対外的に公表された研究成果、学会における活動状況、公共機関における社会的な活動状況等であり、既に年度ごとに収集公表してきている。これに既に全学的に実施している学生による授業評価の結果を加えて、上述した自己点検・評価、情報公開の基礎資料とし、これらの結果による教員の自発的な資質向上を促す。また、教員の昇任人事等についてもこれらの基礎資料による評価を中心に行なうことを明示し、教員自身による自己啓発を推進させる。

また、教育活動に対しては、科目毎のGPA評価の分布や授業評価アンケートの集計結果等をホームページで積極的に公開することにより、自担当科目の成績評価と他の教員担当科目の評価を容易に比較し、教員各自が自らの授業の客観評価を行うことが可能となるようにしている。加えて、教員の学生評価の客観性をより明確にするために、本学に既に設置されているクレーム・コミティ制度によって、学生からのクレームに明確に対応できる体制を整える。この制度では、学生と科目担当者の直接の話し合いでは解決できない授業内容並びに授業方法に関する改善の要望や、成績評価に関する質問や異議申し立てを主として取り扱う。

さらに、各教員間の研究内容に関する情報を積極的に交換して新たな研究シーズを創生するためのさまざまな施策を行う。具体的には、各教員の研究課題や、博士後期課程学生の研究進行状況に関する中間発表会を適時開催し、研究科全体としての研究課題情報の共有を図ると同時に、学生の研究指導に対してもチームワークによる指導体制の確立に努めることを通じて教員の自己啓発を促す。これらの実行に伴い、研究科全体の総合的な運営は活性化すると考えられる。さらにこのような複眼的な研究指導の活用は学生の知的好奇心を喚起し、学修の動機付けに役立つとともに、教育の質の向上を図ることになる。

資料目次

【資料 1】研究指導スケジュール

【資料 2】履修モデル

【資料 3】同志社大学研究倫理規準

【資料 4】同志社大学研究倫理委員会規程

【資料 5】同志社大学「人を対象とする研究」倫理規準

【資料 6】同志社大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会規程

【資料 7】医心館平面図

【資料 8】大学院生共同研究室見取り図

【資料 9】学術雑誌タイトル

【資料 10】学生教育用図書リスト

【資料 11】既設学部及び研究科との関連図

【資料 12】生命医科学研究科委員会規程

【資料 13】大学院生命医科学研究科主任会に関する申合せ

【資料 14】生命医科学部・生命医科学研究科自己点検・評価委員会規程

【資料 15】生命医科学研究科 F D 委員会規程

【資料 16】定年に関する規程等

研究指導スケジュール（博士前期課程）

学年	学期	研究指導科目	指導内容	備考
1	春学期	研究実験	当該研究分野の背景とその基礎理解 文献調査ならびに基礎知識獲得の確立	
1	秋学期	研究実験	研究手法の検討を通じて研究遂行に必要な、実験手順、測定手法等の確立	プロジェクト特別演習 Aの履修
2	春学期	研究実験	応用展開に向けて当該研究分野における各自の研究課題の持つ意味の位置付け理解の確立	学会や研究会における 成果発表の奨励
2	秋学期	研究実験	当該研究で得られた研究成果の持つ社会的意義についての理解深化とその情報発信手法の確立	学会や研究会における 成果発表の奨励 修士学位論文の執筆
			修士学位論文の提出 公聴会 修士学位論文審査 修了判定	研究科委員会

上記に加えて、指導教員の指示で、各ステップで各専門関連科目の選択履修を併せて行う。

研究指導スケジュール（博士後期課程）

学年	学期	研究指導科目	指導内容	備考
1	春学期	特殊研究	当該研究分野における各自の研究課題の明確な位置付けの確立	各専門領域の「深論」 科目の履修
1	秋学期	特殊研究	当該研究分野における先行研究及びその結果の俯瞰ならびにこれらの基本原理理解の確立	プロジェクト特別演習 Bの履修
2	春学期	特殊研究	各自の研究設定課題に対する独創性及び展開性についての点検確認作業を通じての研究の将来展開の確立	学会や研究会における 成果発表の奨励
2	秋学期	特殊研究	得られた研究成果の中間まとめとその当該研究領域における成果の位置付けの確認	学会や研究会における 成果発表の奨励
3	春学期	特殊研究	得られた研究成果の社会的な意義とその波及性に関する検討ならびに具体的な応用に関する展望の確立	国際会議における成果 発表、専門誌への論文 投稿
3	秋学期	特殊研究	得られた研究成果の発信・公表を通じた当該研究分野における成果達成度の評価確認	国際会議における成果 発表、専門誌への論文 投稿 博士学位論文の執筆
			博士学位論文の提出 公聴会 博士学位論文審査 修了判定	研究科委員会

履修モデル

医工学・医情報学専攻 博士前期課程

医療技術産業のみならず幅広い産業分野でその基幹を支えて活躍できる中核的技術者

学年	学期	授業科目・論文		研究指導科目(必修) (単位数)
		必修科目(単位数)	選択科目(単位数)	
1	春学期		医用複合材料学特論(2) バイオマテリアル特論(2) 医用デバイス特論(2) 生体計測特論1(2)	医工学研究実験 (2)
	秋学期	プロジェクト特別演習A(2)	再生医療特論(2) マイクロマテリアル特論(2) 機械制御工学特論(2) 生体計測特論2(2)	医工学研究実験 (2)
2	春学期		機能解剖特論(2) 非線形現象解析特論(2)	医工学研究実験 (2)
	秋学期	論文		医工学研究実験 (2)

イタリックは基礎的素養を涵養する関連分野

医工学・医情報学専攻 博士後期課程

(履修モデル1) 基幹産業分野で次世代を先導する技術者

学年	学期	授業科目・論文		研究指導科目(必修) (単位数)
		必修科目(単位数)	選択科目(単位数)	
1	春学期		生体計測深論(2)	医情報学特殊研究 (2)
	秋学期	プロジェクト特別演習B(2)		医情報学特殊研究 (2)
2	春学期			医情報学特殊研究 (2)
	秋学期			医情報学特殊研究 (2)
3	春学期			医情報学特殊研究 (2)
	秋学期	論文		医情報学特殊研究 (2)

(履修モデル2) わが国の高度医療技術研究を先導し、国際的に高く評価される研究者

学年	学期	授業科目・論文		研究指導科目(必修) (単位数)
		必修科目(単位数)	選択科目(単位数)	
1	春学期		再生医療深論(2)	医工学特殊研究 (2)
	秋学期	プロジェクト特別演習B(2)		医工学特殊研究 (2)
2	春学期			医工学特殊研究 (2)
	秋学期			医工学特殊研究 (2)
3	春学期			医工学特殊研究 (2)
	秋学期	論文		医工学特殊研究 (2)

医生命システム専攻 博士前期課程

創薬や食品を中心とした健康医療分野並びにその周辺医療技術分野産業の高度化に貢献できる専門科学者

学年	学期	授業科目・論文		研究指導科目(必修) (単位数)
		必修科目(単位数)	選択科目(単位数)	
1	春学期		システム生物学特論(2) 創薬科学特論(2) 遺伝子工学特論(2) ストレス応答解析学特論(2)	医生命システム研究実験 (2)
	秋学期		タンパク質・核酸構造解析特論(2) 医療情報学特論(2) 機能性食品医学特論(2) バイオテクノロジー-特論(2)	医生命システム研究実験 (2)
2	春学期		分子薬理学特論(2) 脳神経機構学特論(2) 生命医科学特論特別講義A1(2)	医生命システム研究実験 (2)
	秋学期	論文		医生命システム研究実験 (2)

イタリックは基礎的素養を涵養する関連分野

医生命システム専攻 博士後期課程

大学や公的研究機関あるいは医療技術関連企業において、わが国の高度医療技術研究を先導し、国際的に高く評価される科学者・研究者

学年	学期	授業科目・論文		研究指導科目(必修) (単位数)
		必修科目(単位数)	選択科目(単位数)	
1	春学期		臨床再生医学深論(2)	医生命システム特殊研究 (2)
	秋学期	プロジェクト特別演習B(2)		医生命システム特殊研究 (2)
2	春学期			医生命システム特殊研究 (2)
	秋学期			医生命システム特殊研究 (2)
3	春学期			医生命システム特殊研究 (2)
	秋学期	論文		医生命システム特殊研究 (2)

同志社大学研究倫理規準

2005年 4月23日制定

2005年 5月 1日施行

2007年 6月30日改正

前文

社会のグローバル化，多様化に伴い，学術研究の社会的役割も複雑化し，その人間，社会，自然に及ぼす影響は極めて大きなものとなっている。その影響は，研究成果のみならず，研究活動すべての過程における行為によって，同時的かつ広範囲に及ぶ。

学術研究が公共の福祉の増進に寄与し，持続的に進展を遂げるためには，研究の自由及び研究者の自治が保障されなければならないし，そのことによって自らを律する高度な倫理的規範が求められることも自明である。

学術研究の発展は人類の福祉に多大な貢献をするとともに，同時に，その成果が非人道的な政策・手段に用いられたりした負の面も合わせもっていることに，我々は深く思いをいたさねばならない。

大学は，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする使命を担っており，学術研究が社会から負託された公共的，公益的な知的生産活動であることを真摯に受け止めなければならない。

同志社大学は，本学の学術研究が社会から信頼と尊敬を得るべく，あらゆる努力をばらうことを宣言する。

(目的)

第1条 同志社大学は，本学の学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし，研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準をここに定める。

(研究の基本)

第2条 研究者は，良心と信念に従って，自らの責任で研究を遂行し，不当な圧力により研究成果の客観性を歪めることがあってはならない。

2 研究者は，生命の尊厳及び個人の尊厳を重んじ，基本的人権を尊重しなければならない。

3 研究者は，国際的に認められた規範，規約及び条約等，国内の法令，告示等及び本学の諸規程を遵守しなければならない。

(定義)

第3条 「研究者」には，本学の専任教員のみならず，本学において研究活動に従事する者を含み，学生であっても，研究に関わるときは「研究者」に準ずるものとする。

2 「研究」には，研究計画の立案，計画の実施，成果の発表・評価にいたるすべての過程における行為，決定及びそれに付随するすべての事項を含むものとする。

3 「発表」とは，自己の研究に係る新たな知見・発見又は専門的知見を公表するすべての行為を含むものとする。

(研究者の態度)

第4条 研究者は，自己の専門研究が及ぶ範囲を自覚し，他分野の専門研究を尊重するとともに，自己研鑽に努めなければならない。

2 研究者は，他の国，地域，組織等の研究活動における，文化，慣習，規律の理解に努めなければならない。

3 研究者は，共同研究者が対等なパートナーであることを理解し，お互いの学問的立

場を尊重しなければならない。研究協力者、研究支援者等に対しては、謝意をもって接しなければならない。

4 研究者は、学生が共に研究活動に関わるときは、学生が不利益を蒙らないよう十分な配慮をしなければならない。

5 研究者は、自己の研究計画について、分かりやすく、明瞭に説明できるよう努めなければならない。

6 研究者は、研究遂行中において、計画進捗状況の自己点検を行い、適切な時期に途中経過の報告ができるよう努めなければならない。

(研究のための情報・データ等の収集)

第5条 研究者は、科学的かつ一般的に妥当な方法、手段で、研究のための資料、情報、データ等を収集しなければならない。

2 研究者が、研究のために資料、情報、データ等を収集する場合は、その目的に合う必要な範囲において収集するよう努めなければならない。

(インフォームド・コンセント)

第6条 研究者が、人の行動、環境、心身等に関する個人の情報、データ等の提供を受けて研究を行う場合は、提供者に対してその目的、収集方法等について分かり易く説明し、提供者の明確な同意を得なければならない。

2 組織、団体等から、当該組織、団体等に関する資料、情報、データ等の提供を受ける場合も前項に準じるものとする。

(個人情報の保護)

第7条 研究者は、プライバシー保護の重要性に鑑み、研究のために収集した資料、情報、データ等で、個人を特定できるものは、これを他に洩らしてはならない。

(情報・データ等の利用及び管理)

第8条 研究者は、研究のために収集又は生成した資料、情報、データ等の滅失、漏洩、改ざん等を防ぐために適切な措置を講じなければならない。

2 研究者は、研究のために収集又は生成した資料、情報、データ等を適切な期間保存しなければならない。ただし、法令又は規程等に保存期間の定めのある場合はそれに従うものとする。

(機器、薬品・材料等の安全管理)

第9条 研究者が、研究実験において研究装置・機器等及び薬品・材料等を用いるときは、関係取扱規程、要領等を遵守し、その安全管理に努めなければならない。

2 研究者は、研究の過程で生じた残渣物、使用済みの薬品・材料等について、責任をもってその最終処理をしなければならない。

(研究成果発表の規準)

第10条 研究者は、研究の成果を広く社会に還元するため、公表しなければならない。

ただし、産業財産権等の取得及びその他合理的理由のため公表に制約のある場合は、その合理的期間内において公表しないものとすることができる。

2 研究成果は、学問的誠実性と論理的忠実性によって導かれた、新たな知見、発見であることに鑑み、研究者は、他者の成果を自己の成果として発表してはならない。

3 研究者は、研究成果の発表に際しては、先行研究を精査し尊重するとともに、他者の知的財産を侵害してはならない。

4 研究成果発表における不正な行為は、大学及び研究者に対する社会の信頼性を喪失する行為であることを研究者は自覚し、次に掲げる不正な行為は、絶対にこれをしてはならない。

(1) 捏造(存在しないデータの作成)

(2) 改ざん(データの変造, 偽造)

(3) 盗用(他人のデータや研究成果等を適切な引用なしで使用)

- 5 研究発表における不適切な引用, 引用の不備, 誇大な表現, 都合のよい誤解をさせる表現等は, 不正行為とみなされる恐れがあり, 研究者は, 適切な引用, 誤解のない完全な引用, そして真摯な表現をしなければならない。

(オーサーシップの規準)

第11条 研究者は, 研究活動に実質的な関与をし, 研究内容に責任を有し, 研究成果の創意性に十分な貢献をしたと認められる場合に, 適切なオーサーシップを認められる。

(研究費の取扱規準)

第12条 研究者は, 研究費の源泉が, 学生納付金, 国・地方公共団体等からの補助金, 財団等からの助成金, 寄付金等によって賄われていることを常に留意し, 研究費の適正な使用に努め, その負託に応えなければならない。

- 2 研究者は, 交付された研究費を当該研究に必要な経費のみに使用しなければならない。

- 3 研究者は, 研究費の使用に当たっては, 法令, 本学の経理規程, 当該研究費の使用規定等を遵守しなければならない。

- 4 研究者は, 証憑書類等を適切に管理し, 実績報告においては, 研究遂行の真実を明瞭に記載しなければならない。

(他者の業績評価)

第13条 研究者が, レフリー, 論文査読, 審査委員等の委嘱を受けて, 他者の研究業績の評価に関わるときは, 被評価者に対して予断を持つことなく, 評価基準, 審査要綱等に従い, 自己の信念に基づき評価しなければならない。

- 2 研究者は, 他者の業績評価に関わり知り得た情報を不正に利用してはならない。当該業績に関する秘密は, これを保持しなければならない。

(同志社大学の責務)

第14条 本学は, 研究者の研究倫理意識を高揚するために, 必要な啓発, 倫理教育の計画を策定し, 実施するものとする。

- 2 本学は, この規準の運用を実効あるものにするため, 研究者の研究倫理に反する行為に対しては適切な措置を講じるものとする。

- 3 本学は, 研究に関して, 不当又は不公正な扱いを受けた者からの苦情, 相談等に対応するものとする。

- 4 前3項の目的を達成するため, 同志社大学研究倫理委員会を設置する。

- 5 同志社大学研究倫理委員会に関する事項は別に定める。

(事務)

第15条 この規準に関する事務は, 倫理審査室事務室が行う。

(改廃)

第16条 この規準の改廃は, 同志社大学研究倫理委員会の議を経て, 大学評議会において決定する。

附 則

この規準は, 2007年7月1日から施行する。

同志社大学研究倫理委員会規程

2005年 4月23日 制定

2005年 5月 1日 施行

2007年 6月30日 改正

(目的)

第1条 同志社大学研究倫理規程(以下「規程」という。)の趣旨に則り、研究倫理に関する事項について審議、調査、検討するため、同志社大学研究倫理委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(審議事項及び任務)

第2条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 規程第14条に定める本学の責務に関する事項
- (2) 規程の運用、解釈に関する事項
- (3) 規程の改廃に関する事項
- (4) 研究倫理に関する学長の諮問事項
- (5) その他必要な事項

2 委員会は、必要があると認められるときは、研究者に対して、適切な指導及び助言を行うものとする。

3 委員会は、規程第14条第3項に定める苦情、相談等に対応するものとする。

4 委員会は、研究者の重大な規程違反行為があると認められる場合は、学長に報告するものとし、学長は適切な措置を講じるものとする。

5 委員会は、研究倫理に関する事項について調査、検討し、必要あるときは学長に報告又は提案するものとする。

(構成)

第3条 委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 倫理審査室長
- (2) 研究開発推進機構副機構長
- (3) 「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会委員長
- (4) 組換えDNA実験安全管理委員会委員長
- (5) 動物実験委員会委員長
- (6) 教員から4名
- (7) 職員から2名

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。委員長は、前条第6号に定める委員から学長が委嘱し、副委員長は研究開発推進機構副機構長をもってあてる。

(任期)

第5条 第3条第1号から第5号に定める委員の任期は、その職の期間とし、第6号及び第7号に定める委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(議事)

第6条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の3分の2以上の出席で成立し、議事は委員の過半数で決する。

3 前項に拘わらず、第2条第4項に規定する「重大な違反行為」に関する議事は、委員の3分の2以上で決するものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めた場合には、委員以外の者の出席を求め、意見を徴することができる。

(相談員)

第8条 委員会に、第2条第3項に定める苦情、相談等に対応するため委員以外に研究倫理相談員(以下「相談員」という。)を置く。委員は、相談員を兼ねる。

2 相談員は、学長が、次に掲げる者から委嘱する。ただし、第1号に掲げる者は、研究科長の推薦によるものとする。

(1) 各研究科の教員から1名

(2) 前号以外の教員から若干名

3 委員以外の相談員の任期は2年とする。

4 相談員は、苦情、相談等を受けた事項について、委員長に報告する。

5 委員長は、前項の報告を受けたとき、必要ある場合は委員会を開催するものとする。

6 相談員は、委員会に出席して意見を述べることができる。

(守秘義務)

第9条 委員及び相談員は、相談内容等について個人のプライバシー保護に留意し、知り得た秘密は、これを他に洩らしてはならない。

(事務)

第10条 委員会の事務は、倫理審査室事務室が行う。

(その他)

第11条 委員会は、第8条に規定するもののほか、相談員に関する事項を定めることができる。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学評議会において決定する。

附 則

この規程は、2007年7月1日から施行する。

同志社大学「人を対象とする研究」倫理規準

2005年 4月23日 制定

2005年 5月 1日 施行

2007年 6月30日 改正

(目的)

第1条 この規準は、同志社大学研究倫理規準に定めるもののほか、人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究(以下「人を対象とする研究」という)を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を定める。

(研究の基本)

第2条 人を対象とする研究を行う者は、生命の尊厳及び個人の尊厳を重んじ、科学的及び社会的に妥当な方法・手段で、その研究を遂行しなければならない。

2 人を対象とする研究で、「ヒト胚幹細胞を中心としたヒト胚研究」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究」等生命倫理に関わる研究を行う者は、当該法令及び所轄庁の告示、指針等を遵守しなければならない。

3 研究者が、個人の情報、データ等の収集・採取を行う場合、安心・安全な方法で行い、提供者の身体的、精神的負担及び苦痛を最小限にするよう努めなければならない。

(定義)

第3条 この規準において、個人から収集・採取する「人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等」(以下「個人の情報、データ等」という。)とは、個人の思惟、行動、個人環境、身体等に係る情報、データ及びヒト由来の試料(血液、体液、組織、細胞、遺伝子、排泄物等)をいう。

2 「提供者」とは、研究のため個人の情報、データ等を提供する者をいう。

(研究者の説明責任)

第4条 研究者が、個人の情報、データ等を収集・採取するときは、研究者は、提供者に対して研究目的、研究成果の発表方法等、研究計画について分りやすく説明しなければならない。

2 研究者は、個人の情報、データ等を収集・採取するにあたり、提供者に対し何らかの身体的、精神的負担若しくは苦痛を伴うことが予見される場合、その予見される状況をできるだけ、わかりやすく説明しなければならない。

(インフォームド・コンセント)

第5条 研究者が、個人の情報、データ等を収集・採取するときは、予め提供者の同意を得ることを原則とする。

2 「提供者の同意」には、個人の情報、データ等の取扱い及び、発表の方法等に関する事項を含むものとする。

3 研究者は、提供者から当該個人の情報、データ等の開示を求められたときは、これ

を開示しなければならない。

4 研究者は、提供者が同意する能力がないと判断される場合は、本人に代わる者から同意を得なければならない。

5 提供者からの同意は、原則として文書でもって行うものとし、研究者は、その記録を適切な期間保管しなければならない。

6 研究者は、提供者が同意を撤回したときは、その情報、データ等を廃棄しなければならない。

(第三者への委託)

第6条 研究者が第三者に委託して、個人の情報、データ等を収集する場合は、この規準の趣旨に則った契約を交わして行わなければならない。

2 研究者は、必要あるときは、研究目的等を提供者に直接説明しなければならない。

(授業等における収集・採取)

第7条 教員が、授業、演習、実技、実験・実習等、教育実施の過程において、研究のために受講生から個人の情報、データ等の提供を求めるときは、予め受講生の同意を得ることを原則とする。

2 教員は、個人の情報、データ等の提供の有無により、受講生に成績評価において不利益を与えてはならない。

(謝礼の提供)

第8条 研究者が提供者に対し、謝礼として金品を提供する場合、その金品は社会通念上、妥当な範囲で定めるものとし、その受け払いについて適切な管理をしなければならない。

(研究計画等の審査)

第9条 本学は、本学において、人を対象とする研究を行う研究者からの申請に基づき、研究の実施計画及び出版公表計画等(以下「研究計画等」という。)の審査を行うものとする。

2 前項の目的を達成するため、同志社大学研究倫理委員会のもとに、同志社大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会を設置する。

3 審査の手続等に関する事項は別に定める。

(改廃)

第10条 この規準の改廃は、同志社大学研究倫理委員会の議を経て、大学評議会において決定する。

(事務)

第11条 この規準に関する事務は、倫理審査室事務室が行う。

附 則

この規準は、2007年7月1日から施行する。

同志社大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会規程

2005年 4月23日 制定
2005年 5月 1日 施行
2007年 6月30日 改正
2009年 3月28日 改正
2011年 3月26日 改正

(目的)

第1条 同志社大学「人を対象とする研究」倫理規準第9条に規定する研究計画等の審査をするため、同志社大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(審査の基準)

第2条 審査の基準は、一般的に妥当と認められる倫理的規範に基づくほか、次の各号に掲げる基準によるものとする。

- (1) 同志社大学研究倫理規準
- (2) 同志社大学「人を対象とする研究」倫理規準
- (3) 関連する法令、所轄庁の指針等

(委員会)

第3条 委員会は、学長が委嘱する次の者をもって構成する。

- (1) 研究開発推進機構副機構長
- (2) 理工学部の教員 2名
- (3) 生命医科学部の教員 3名
- (4) スポーツ健康科学部の教員 2名
- (5) 心理学部の教員 2名
- (6) 第2号から第5号を除く学部等の教員 4名
- (7) 法律を専門とする倫理審査主事
- (8) 職員 2名

(任期)

第4条 前条第1号及び第7号の委員の任期は、その職の期間とする。

2 前条第2号から第6号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は第3条第2号から第6号の委員の中から学長が委嘱し、副委員長は研究開発推進機構副機構長をもってあてる。

2 委員長は委員会を主宰し、代表する。

(議事)

第6条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の3分の2以上の出席で成立し、議事は委員の過半数で決する。ただし、可否同数の場合は、議長が決する。

3 研究計画等につき、委員でその審査を申請した者は、当該研究計画等に係る議事に参加することはできない。ただし、委員会の承認を得て、出席し、発言することができる。

(審査の申請)

第7条 研究計画等の審査を申請する者(以下「申請者」という。)は、別に定める研究計画等審査申請書により、学長に申請する。

2 学長は、研究計画等審査申請書を受理したときは、速やかに委員長にその審査を付議する。

(審査方法)

第8条 審査の方法は、書面審査及び合議審査とする。

2 委員会は、必要あるときは、申請者を当該研究計画等の審査を行う会議に出席させ、申請内容等の説明を求めることができる。

3 委員会は、審査の経過を勘案して、申請者に対して研究計画等の変更を勧告することができる。

4 審査の判定は、次に掲げる表示により行う。

(1) 承認

(2) 条件付承認

(3) 不承認

(4) 非該当

(書面審査)

第9条 委員長は、第7条第2項に定める審査の付議を受けたときは、委員の中から主査1名及び副査2名を指名して、研究計画等審査申請書に基づく書面により審査を行う。

2 書面審査の判定は、主査及び副査の合意により決定する。

3 前項の判定が、前条第4項に規定する「承認」の場合、委員長は、判定結果を委員に通知し、承認を求めなければならない。

4 前項の判定結果の承認は、委員の過半数の承認をもって確定する。

(合議審査)

第10条 前条第3項に定める判定結果の承認が得られなかった場合、及び書面審査における判定が、第8条第4項に規定する「承認」以外の場合、委員長は、当該申請を合議審査に付し、判定を行うものとする。

2 合議審査の委員会の議事は、第6条の規定により行う。

(審査の結果)

第11条 委員長は、研究計画等の審議の結果を、別に定める審査結果通知書により、速や

かに申請者に通知するとともに、学長に報告する。

- 2 審査の結果通知には、その理由を付記する。
- 3 審議の経過及び結果は、文書をもって記録、保存し、委員長が必要と認めたときは公表することができる。

(専門委員)

第 12 条 研究計画等の専門的な事項に関して調査、審議する必要がある場合、委員長は専門委員を委嘱することができる。

- 2 専門委員は、委員会に出席して意見を述べるることができる。ただし、議事に加わることはできない。
- 3 専門委員は、当該専門事項の調査、審議等が終わったときに解職される。

(研究計画等の変更)

第 13 条 申請者が、第 8 条第 4 項第 1 号及び第 2 号の判定を受けた研究計画等において、第 2 条各号に定める倫理規準等に関わる事項の変更をしようとするときは、その変更について委員会の承認を得なければならない。

- 2 前項の「委員会の承認」の方法については、第 8 条の規定を準用する。

(再審査)

第 14 条 審査の判定に異議のある申請者は、異議の根拠となる資料を添えて、委員会に再審査の申請をすることができる。

- 2 再審査の申請の手続については第 7 条の規定を、審査の方法については第 8 条の規定をそれぞれ準用するものとし、その他再審査の手続に関する必要な事項は別に定める。

(委員会の運営)

第 15 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項については、委員会の議を経て、別に定めることができる。

(事 務)

第 16 条 委員会の事務は、倫理審査室事務室が行う。

(改 廃)

第 17 条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学評議会において決定する。

附 則

この規程は、2011年4月1日から施行する。

1 (書類等の題名)

資料 7 医心館平面図

2 (説明)

「同志社大学大学院生命医科学研究科医工学・医情報学専攻及び医生命システム専攻設置の趣旨及び設置を必要とする理由」17 ページに記述した、当該研究科の教育研究棟である医心館における研究室・実験室等の配置及び面積についての資料として、医心館各階（地下 1 階から地上 6 階）平面図に医生命システム専攻並びに医工学・医情報学専攻医工学コース及び医情報学コースで使用する研究室・実験室等をそれぞれ色づけして区分して示した。

1 (書類等の題名)

資料 8 大学院生共同研究室見取り図

2 (説明)

「同志社大学大学院生命医科学研究科医工学・医情報学専攻及び医生命システム専攻設置の趣旨及び設置を必要とする理由」17 ページに記述した、大学院生共同研究室に係る資料として、各室における大学院生用の什器の配備状況を見取り図として示した。なお、本「資料 8 大学院生共同研究室見取り図」には、各室の医心館における配置を、「資料 7 医心館平面図」の各室に付した番号に対応した番号を付して示した。

学術雑誌タイトル
American Journal of Pathology
Alzheimer Disease and Associated Disorders
Annual Review of Biochemistry
Annual Review of Neuroscience
Antioxidants & Redox Signaling
Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology
Biochemical Journal
Blood: Journal of American Society of Hematology (incl.Supplement)
Circulation Research
Cornea
Development
EMBO Journal
EMBO Reports
FASEB Journal
Genes and Development
Infection and Immunity
International Journal of Humanoid Robotics
Journal of Biological Chemistry
Journal of Cell Biology
Journal of Cell Science
Journal of Clinical Investigation
Journal of Immunology
Journal of Micromechanics and Microengineering
Journal of Neurology, Neurosurgery and Psychiatry
Journal of Neuropathology and Experimental Neurology
Journal of Neurophysiology
Journal of Neuroscience
Modelling & Simulation in Materials Science and Engineering
Molecular and Cellular Biology
Molecular Biology of the Cell (Tier 3)
Nature
Nature Biotechnology
Nature Cell Biology
Nature Genetics
Nature Immunology
Nature Medicine
Nature Neuroscience
Nature Reviews : Drug Discovery
Nature Reviews : Molecular Cell Biology
Nature Reviews : Neuroscience
Nature Reviews. Genetics
Nature Reviews. Microbiology
Nature Structural & Molecular Biology
Neurology
New England Journal of Medicine Site License
Pharmacological Reviews
Proceedings of the National Academy of Sciences
The Journal of bone and joint surgery. American volume / American Orthopaedic Association.
Tissue Engineering (3 Parts Combined Subscription)

学生教育用図書リスト 医工学・医情報学専攻 医工学コース

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
AutoCAD LT(エルティ) 2000から2007(ナナ)まで作図・操作学習:LT 2000・LT 2001・LT 2002	鳥谷部真	エクスナレッジ	200608	9784767805573
AutoCAD LT(エルティ) 2007/AutoCAD 2007スタディガイド:CAD製図を始める方の公認トレーニング教材	オートデスク株式会社:清水卓宏	ソフトバンククリエイティブ	200607	9784797336597
基礎から学ぶAutoCAD 2002:ヒューマン・アカデミー-professional養成. 実践編	ヒューマン・アカデミー	ソフトバンククリエイティブ	200301	9784797322552
工学基礎図学と製図	磯田浩:鈴木賢次郎	サイエンス社	200103	9784781909431
徹底解説AutoCAD LT(エルティ) 2007:AutoCAD 2007でも活用できる!	鈴木裕二:伊藤美樹	エクスナレッジ	200608	9784767805580
AutoCAD LT 2007ベーシックマスター	空野順子	秀和システム	200608	9784798013565
はじめてみようAuto CAD LT 2007:CADノススメ(知っておきたいCADの知識). 基礎編	キャドワークス	キャドワークス	200611	9784907641603
はじめて学ぶAutoCAD LT 2007作図・操作ガイド	鈴木孝子	ソーテック社	200606	9784881665275
AutoCAD LTトレーニングブック. 2006/2007対応	鈴木孝子	ソーテック社	200607	9784881665329
最新整形外科学大系. 5 運動器の外傷学	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200706	9784521722214
最新整形外科学大系. 11 頸椎・胸椎	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200708	9784521722818
最新整形外科学大系. 12 胸腰椎・腰椎・仙椎	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200609	9784521722917
最新整形外科学大系. 13 肩関節・肩甲帯	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200605	9784521723013
最新整形外科学大系. 15A 手関節・手指 1	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200703	9784521723211
最新整形外科学大系. 15B 手関節・手指 2	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200705	9784521724317
最新整形外科学大系. 16 骨盤・股関節	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200612	9784521723310
最新整形外科学大系. 17 膝関節・大腿	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200607	9784521723419
最新整形外科学大系. 18 下腿・足関節・足部	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200708	9784521723518
最新整形外科学大系. 19 関節リウマチと類縁疾患	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200709	9784521723617
最新整形外科学大系. 20 骨・軟部腫瘍および関連疾患	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200701	9784521723716
最新整形外科学大系. 21 骨系統疾患、代謝性骨疾患	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200707	9784521723815
最新整形外科学大系. 22 末梢神経疾患、筋疾患、循環障害	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200712	9784521723914
最新整形外科学大系. 23 スポーツ傷害	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200711	9784521724010
最新整形外科学大系. 25 高齢者の運動器疾患	越智隆弘:糸満盛憲	中山書店	200702	9784521724218
自動制御再入門:読むだけで力がつく	臼田昭司	日刊工業新聞社	200403	9784526052507
制御システム設計の基礎と演習	金井喜美雄:川邊武俊	積書店	200604	9784837506898
制御工学の基礎	増田良介:曲谷一成	昭晃堂	200304	9784785690687
POD>応力集中	西田正孝	森北出版	200101	9784627940291
よくわかる破壊力学	萩原彦彦:鈴木秀人	オーム社	200006	9784274132018
応力集中の考え方	村上敬宜	養賢堂	200507	9784842503745
基礎材料強度学	三村宏:町田進	培風館	200005	9784563035464
材料の疲労破壊	スプラ・スレッシュ:岸本喜久雄	培風館	200503	9784563067427
材料力学入門:詳しい解説と演習	高尾健一	ふくろう出版	200204	9784861860829
残留応力のX線評価:基礎と応用	田中啓介(1943-):鈴木賢治(1958-)	養賢堂	200607	9784842503844
コンポジット材料の製造と応用	シーエムシー出版	シーエムシー出版	200010	9784882310938
学生のための初めて学ぶ「基礎材料学」	国立高等専門学校材料科学研究会:宮本	日刊工業新聞社	200303	9784526051098
基礎からの機械・金属材料	斎藤栄:戸部省吾	日新出版	200404	9784817302151
金属材料の基礎	長崎相正	成山堂書店	200107	9784425690060
先進複合材料工学	辺吾一:石川隆司	培風館	200505	9784563067502
再生医療とはなにか	上田実	メディア	200403	9784895810128
細胞増殖因子と再生医療	松本邦夫:田畑泰彦	メディカルレビュー社	200607	9784896009972
細胞培養なるほどQ&A—意外と知らない基礎知識+とっさに役立つテクニック	許南浩	羊土社	200312	9784897068787
細胞培養入門ノート(無敵のバイオテクニカルシリーズ 特別編)	井出利憲	羊土社	199812	9784897069104

学生教育用図書リスト 医工学・医情報学専攻 医工学コース

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
図解再生医療工学	立石哲也・田中順三	工業調査会	200403	9784769371267
絵とき再生医学入門:幹細胞の基礎知識から再生医療の実際までイッキにわかる	朝比奈欣治・立野知世	羊土社	200403	9784897068800
人工臓器・再生医療の最先端	許俊鋭	先端医療技術研究所	200511	9784925089456
センサがわかる本	都甲潔・宮城幸一郎	オーム社	200204	9784274035647
マルチボディダイナミクスの基礎:3次元運動方程式の立て方	田島洋	東京電機大学出版局	200611	9784501416201
演習で学ぶ機械力学	小寺忠・矢野澄雄	森北出版	200508	9784627663022
機械力学	末益博志・金原稔	実教出版	200701	9784407308570
医用工学	岡部哲夫・春名正光	医歯薬出版	200602	9784263205464
医療機器システム白書. 2006~2007	月刊新医療編集部	エム・イー振興協会 (発売:産業科学)	200604	9784901276184
機能設計から生体環境設計へ:「安心」を育てる科学と医療	富田直秀	丸善	200503	9784621075340
生体物性/医用機械工学	池田研二・嶋津秀昭	秀潤社	200009	978479622259
先端技術が拓く医工学の未来	古川俊之	アドスリー(発売:丸善)	200210	9784900659308
再生医療のためのバイオマテリアル	田畑泰彦	コロナ社	200608	9784339072556
医用材料工学	堀内孝・村林俊	コロナ社	200602	9784339071122
医療用高分子材料の展開	中林宣男	シーエムシー出版	200312	9784882318132
はじめて学ぶ医療統計学	T. D. V. スウィンスコ ー・M. J. キャンベル	総合医学社	200309	9784883781546
医学英語入門	吉田聡	朝倉書店	200211	9784254300697
医学概論	日野原重明	医学書院	200303	9784260332606
英和・和英医薬実用英語ハンドブック	沢田邦昌	じほう	200404	9784840732734
実験動物の技術と応用. 実践編	日本実験動物協会	アドスリー(発売:丸善)	200406	9784900659452
実験動物の技術と応用. 入門編	日本実験動物協会	アドスリー(発売:丸善)	200405	9784900659445
Microsoft Visual Basic. NETによるプログラミングMicr. 下	チャールズ・ベゾルド: 日経BPソフトプレス	日経BPソフトプレス (発売:日経BP出版 センター)	200212	9784891003197
Microsoft Visual Basic. NETによるプログラミングMicr. 上	チャールズ・ベゾルド: 日経BPソフトプレス	日経BPソフトプレス (発売:日経BP出版 センター)	200212	9784891003180
Visual Basic. NETオブジェクト指向プログラミング入門	キース・フランクリン: 竹田善太郎	アスキー	200206	9784756141040
Visual Basic. NETによる実践データベースプログラミング	谷尻かおり	技術評論社	200304	9784774116952
Visual Basic. NETによる入門データベースプログラミング	谷尻かおり	技術評論社	200304	9784774116945
Visual Basic. NET読本	大川善邦	工学社	200210	9784875932963
プログラミングMicrosoft Visual Basic. NET. vol. 1(基礎編)	フランチェスコ・バレ ナ:ドキュメントシステ ム	日経BPソフトプレス (発売:日経BP出版 センター)	200209	9784891002978
プログラミングMicrosoft Visual Basic. NET. vol. 2(活用編)	フランチェスコ・バレ ナ:ドキュメントシステ ム	日経BPソフトプレス (発売:日経BP出版 センター)	200209	9784891003098
学生のためのExcel VBA	若山芳三郎	東京電機大学出版局	200303	9784501536008
実習Visual Basic. NET:だれでもわかるプログラミング	林直嗣・室井勝子	サイエンス社	200404	9784781910680

学生教育用図書リスト医工学・医情報学専攻 医情報学コース

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
Electronics : A First Course	PAP	Newnes	200609	9780750669603
Electronics : Circuits, Amplifiers and Gates	PAP	Inst of Physics Pub Inc	200605	9780750310376
Grob's Basic Electronics (IE)		McGraw-Hill College	200606	9780071108485
Grob's Basic Electronics : Fundamentals with OLC (IE)		McGraw-Hill College	200605	9780071108096
Starting Electronics	PAP	Newnes	200410	9780750663861
ECB: 初歩のエレクトロニクス&コンピュータ. no. 4	トランジスタ技術編集部	CQ出版	200006	9784789834322
エレクトロニクスパッケージ技術	英一太	シーエムシー出版	200304	9784882317968
エレクトロニクス実装図鑑: 目で見えるハードウェア実装の最新技術	トランジスタ技術編集部	CQ出版	200107	9784789834346
エレクトロニクス発展のあゆみ. 資料編	エレクトロニクス発展のあゆみ調査会	東海大学出版会	200502	9784486031741
エレクトロニクス用語辞典	手嶋昇次: 組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究	電波新聞社	200604	9784885549137
エレクトロニクス用語辞典: トランジスタ技術を読み解くための...	トランジスタ技術編集部	CQ出版	200107	9784789836203
たのしくできるやさしいエレクトロニクス工作	西田和明	東京電機大学出版局	200004	9784501320706
デジタルIC	丹羽一夫	誠文堂新光社	200102	9784416101001
トランジスタ	丹羽一夫	誠文堂新光社	200011	9784416100097
トランジスタ技術special. no. 85		CQ出版	200401	9784789837453
ハイブリッドマイクロエレクトロニクス技術		シーエムシー出版	200407	9784882318354
パワーMOS FET活用の基礎と実際: 実験で学ぶ高速パワー・スイッチングのノウハウ	稲葉保	CQ出版	200411	9784789830386
パワーエレクトロニクス	電気学会	コロナ社	200002	9784339009590
パワーエレクトロニクス	矢野昌雄: 打田良平	丸善	200011	9784621048092
やさしい電子工作教室: 作りながら学ぶラジオ&エレクトロニクス	高田継男: 中山昇	CQ出版	200408	9784789814836
基礎パワーエレクトロニクス: PSIMで学ぶ	野村弘: 藤原憲一郎	電気書院	200701	9784485300206
実験と工作で学ぶ初めてのエレクトロニクス: 手作り部品の実験からはじめるトランジスタ回路の設計	トランジスタ技術編集部	CQ出版	200108	9784789836401
実践デジタルものづくり: エレクトロニクス産業におけるPLM	上野泰生	白日社	200511	9784891731151
新・図解エレクトロニクス工作: だれでも作れる. 2	新図解エレクトロニクス工作編集部	電波新聞社	200310	9784885547485
新図解エレクトロニクス工作: だれでも作れる. no. 1	新図解エレクトロニクス工作編集部	電波新聞社	200205	9784885547072
選び方・使い方パワーエレクトロニクス機器	山崎靖夫	オーム社	200603	9784274202094
電子セラミックス	泉弘志	誠文堂新光社	200203	9784416102008
電子部品図鑑: エレクトロニクス・パーツの種類と使い方を詳解	小島昇	誠文堂新光社	200702	9784416107010
半導体の仲間たち	泉弘志	誠文堂新光社	200204	9784416102039
パワーエレクトロニクス回路	電気学会	オーム社	200011	9784274035456
初めて学ぶ電子回路とエレクトロニクス工作入門	新電気編集部	オーム社	200203	9784274943034
Comprehensive Handbook of Chemical Bond Energies	Luo, Yu-Ran (EDT)	Taylor & Francis	200703	9780849373664
Comprehensive Medicinal Chemistry II	Triggle, David J. (EDT)/ Taylor, John B. (EDT)	Elsevier	200701	9780080445137
Inorganic Chemistry	Atkins, Peter/ Overton, Tina/ Rourke, J./ Weller, Mark/ Armstrong, F.	Oxford Univ Pr	200601	9780199264636
March's Advanced Organic Chemistry : Reactions, Mechanisms, and Structure (March's Advanced Organic Chemistry)	Smith, Michael B./ March, Jerry	Wiley-Interscience	200701	9780471720911
The Merck Index : An Encyclopedia of Chemicals, Drugs, and Biologicals (Merck Index)	O'Neil, Maryadele J. (EDT)/ Heckelman, Patricia E. (EDT)/ Koch, Cherie	Merck & Co	200611	9780911910001
Chemical Biology : Techniques and Applications	Larjani, Banafshe (EDT)/ Rosser, Colin A. (EDT)/ Woscholski, Rudiazer	John Wiley & Sons Inc	200608	9780470090640
Measurement Uncertainty : An Approach via the Mathematical Theory of Evidence (Springer Series in Reliability Engineering)	Salicone, Simona	Springer	200701	9780387306551
Principles of Electrical Measurement (Sensors Series.)	Tumanski, Sawomir	Inst of Physics Pub Inc	200601	9780750310383
Residual Stress Measurement by X-Ray Diffraction 2003		Society of Automotive Engineers	200302	9780768010695

学生教育用図書リスト医工学・医情報学専攻 医情報学コース

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
The Measurement, Instrumentation and Sensors Handbook (Electrical Engineering Handbook)	Webster, John G. (EDT)	Springer	1999	9783540648307
Atlas of Ultrasound Measurements	Goldberg, Barry B./ McGahan, John P.	Mosby Inc	200607	9780323032292
Bones and Joints : A Guide for Students	Gunn, Christine	Churchill Livingstone	200703	9780443102769
Diagnostic Ultrasound : Imaging and Blood Flow Measurements	Shung, K. Kirk	Marcel Dekker Inc	200509	9780824740962
Differential Diagnosis in Ultrasound Imaging : A Teaching Atlas	Schmidt, Guenter	THIEME, STUTTGART	200600	9783131318916
Digital Human Anatomy and Endoscopic Ultrasonography	Bhutani	B C Decker Inc	200508	9781550091854
Enhancing the Role of Ultrasound with Contrast Agents	Lencioni, Riccardo (EDT)	Springer	200604	9788847004757
Foundations of Biomedical Ultrasound (Biomedical Engineering Series (Oxford University Press).)	Cobbold, Richard S. C.	Oxford Univ Pr	200609	9780195168310
General and Vascular Ultrasound (Case Review Series)	Middleton, William D.	Saunders	200703	9781416039891
Handbook of Elastic properties of Solids, Liquids, and Gasses	Levy, Bass, Stern	Academic Press	2000.10	9780124457607
Handbook on Neurovascular Ultrasound (Frontiers of Neurology and Neuroscience)	Baumgartner, R. W. (EDT)	Karger	200608	9783805580229
Hip Sonography : Diagnosis and Management of Infant Hip Dysplasia	Graf, Reinhard	Springer	200606	9783540309574
Obstetric and Gynecologic Ultrasound (Case Review Series)	Reuter, Karen L. M.D./ Babagbemi, T. Kemi, M.D.	Mosby Inc	200610	9780323039765
Peripheral Vascular Ultrasound : How, Why, and When	Thrush, Abigail/ Hartshorne, Timothy	Churchill Livingstone	200501	9780443072833
Surgical Ultrasound	Ed. by Rene Mantke	THIEME, STUTTGART	200600	9783131318718
Ultrasound (Thieme Clinical Companions)	Schmidt	THIEME, STUTTGART	200600	9783131427113
Ultrasound in Gynecology	Timor-Tritsch, Ilan E./ Goldstein, Steven R., M.D.	Churchill Livingstone	200611	9780443066306
Ultrasound Physics and Instrumentation	Hedrick, Wayne R. / Hykes, David L., Ph.D. / Starchman, Dale E.	Mosby Inc	200501	9780323032124
演習と応用ベクトル解析	寺田文行・福田隆	サイエンス社	200005	9784781909509
幾何学入門	滝沢精二	朝倉書店	200412	9784254117042
技術者のための高等数学. 2	アーウィン・クライツイグ: 近藤次郎	培風館	200306	9784563011161
技術者のための高等数学. 3	アーウィン・クライツイグ: 近藤次郎	培風館	200311	9784563011178
技術者のための高等数学. 4	アーウィン・クライツイグ: 近藤次郎	培風館	200303	9784563011185
技術者のための高等数学. 5	アーウィン・クライツイグ: 近藤次郎	培風館	200312	9784563011192
技術者のための高等数学. 6	アーウィン・クライツイグ: 近藤次郎	培風館	200311	9784563011208
技術者のための高等数学. 7	アーウィン・クライツイグ: 近藤次郎	培風館	200411	9784563011215
分析化学	黒田六郎・杉谷嘉則	裳華房	200403	9784785330699
Excelでやさしく学ぶ多変量解析	室淳子:石村貞夫	東京図書	200406	9784489006791
Excelでやさしく学ぶ統計解析	室淳子:石村貞夫	東京図書	200406	9784489006784
Excelによる統計クイックリファレンス	井川俊彦	共立出版	200305	9784320017375
Mapleによる確率・統計	井上毅	森北出版	200104	9784627094710
S-PLUSによる統計解析	W. N. ヴェナブルズ: B. D. リブリー	シュプリンガー・フェア ラーク東京	200107	9784431708216
エクセルで学ぶ多変量解析の作り方	井上勝雄:広川美津 雄	筑波出版会(発売:丸 善)	200009	9784924753389
確率と統計	釜江哲朗	放送大学教育振興会 (発売:日本放送出版)	200103	9784595131622
数理統計学	稲垣宣生	裳華房	200302	9784785314118
同時に学ぶExcelと入門統計学	新田功	ムイスリ出版	200303	9784896410709
エッセンシャル生化学	シャーロット・W. プ ラット:キャスリーン・ コーネリー	東京化学同人	200612	9784807906444
ここまでのPCR最新活用マニュアル:トラブルシューティングから最先端の遺伝子解析法への。BJ3	佐々木博己	羊土社	200310	9784897064123
GHz時代の高周波回路設計:スイッチ/増幅/検波/混合/発振のテクニックを実験	市川裕一:青木勝	CQ出版	200302	9784789833479
HDL設計練習帳:Verilog-HDLとAHDLによる動くディジタ	猪飼国夫	CQ出版	200205	9784789833615
LCフィルタの設計&製作:コイルとコンデンサで作るLPF/HPF/BPF/B	森栄二	CQ出版	200105	9784789832724
OPアンプによる実用回路設計:アナログ基本デバイスの実践的な使い方を実験解説	馬場清太郎	CQ出版	200405	9784789837484
OPアンプによる増幅回路の設計技法	アナログ・デバイスズ 株式会社:電子回路 技術研究会	CQ出版	200508	9784789836142
PIC/CPLD作れる電子回路工作入門	井上誠一	総合電子出版社	200206	9784915449024

学生教育用図書リスト医工学・医情報学専攻 医情報学コース

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
PLL回路の設計と応用:ループ・フィルタ定数の算出方法とその検証	遠坂俊昭	CQ出版	200311	9784789833455
SPICEとデバイス・モデル:IC設計者に必須のバイポーラ・トランジスタの基礎知識	新原盛太郎	CQ出版	200510	9784789830331
VHDLで学ぶデジタル回路設計:デジタル回路の理論とVHDL設計の基礎を同時に学ぶ	吉田たけお:尾知博	CQ出版	200204	9784789833592
VHDLによるデジタル回路入門	並木秀明:永井亘道	技術評論社	200611	9784774128900
アナログ高周波回路と実装設計の勘どころ:知ると知らないとは大違い	長谷川弘	日刊工業新聞社	200605	9784526056710
アナログ回路再入門:読むだけで力がつく	山崎浩	日刊工業新聞社	200606	9784526056802
アナログ技術センスアップ101:実験で学ぶ回路の高性能化技術	稲葉保	CQ出版	200104	9784789832731
アンプ&ラジオ作例集:真空管からオペアンプまでつって使える電子工作	誠文堂新光社	誠文堂新光社	200609	9784416106068
オーディオDCアンプ製作のすべて:音楽を愛する電子回路. 下巻	金田明彦	誠文堂新光社	200407	9784416104057
オペアンプの基礎マスター	堀桂太郎	電気書院	200607	9784485610015
デジタル・ハードウェア設計の基礎と実践:高性能, 高信頼性システムを開発するための定石	小林芳直	CQ出版	200604	9784789838603
デジタル回路:明快解説・箇条書式	岩出秀平	ムイスリ出版	200604	9784896411270
デジタル回路の設計入門:ハードウェアの動きを理解しながら学ぶ	湯山俊夫	CQ出版	200504	9784789837514
トコトコやさしい電気回路の本	谷腰欣司	日刊工業新聞社	200611	9784526057755
はじめてトランジスタ回路を設計する本	奥沢清吉:奥沢照	誠文堂新光社	200207	9784416102053
はじめての電磁気と電気回路	佐藤次男:佐々木迪之	日刊工業新聞社	200109	9784526048081
はじめて見るオペアンプの本:基本から回路設計までわかる	奥沢照	誠文堂新光社	200503	9784416105016
フィルタ推定の実際:設計現場の基礎理論	佐藤友一	プレアデス出版(発売:現代数学社)	200510	9784768708668
わかりやすいデジタルクロック技術	木原雅巳:小野定康	オーム社	200105	9784274035548
わかりやすい高周波技術実務入門	鈴木茂夫	日刊工業新聞社	200608	9784526057250
わかりやすい電子回路	和泉勲:宇田川弘	コロナ社	200512	9784339007817
わかるVerilog HDL入門:文法の基礎から論理回路設計, 論理合成, 実装まで	木村真也	CQ出版	200607	9784789837569
わかるアナログ電子回路	江間義則	日新出版	200604	9784817302274
わかる電気回路	中西卓二	日新出版	200304	9784817301956
英語で学ぶ電気回路	永吉浩	日新出版	200204	9784817302038
解析OPアンプ&トランジスタ活用:増幅回路設計の真髄を検証する	黒田徹	CQ出版	200209	9784789832694
回路シミュレータ入門講座:小さなアナログ回路シミュレータTanisi	長谷川寛(電気工学)	電波新聞社	200609	9784885549229
絵ときでわかるオペアンプ回路	内山明治:村野靖	オーム社	200007	9784274035357
絵ときでわかるデジタル回路	内山明治:堀江俊明	オーム社	200005	9784274035333
絵ときでわかる電子回路	福田務:高橋寛	オーム社	200307	9784274036026
見方・かき方オペアンプ回路	岩沢孝治:大三宗康	オーム社	200401	9784274036194
高周波技術センスアップ101:数M~数百MHzの高周波信号と上手につきあうために	広畑敦	CQ出版	200312	9784789830416
最新電子回路入門	藤井信生:藤井信生	実教出版	200404	9784407304558
作って学ぶ電子回路工作入門	井上誠一	総合電子出版社	200107	9784915449963
実験して学ぶ高周波回路:無線通信機の基本回路のすべて	櫻井紀佳	CQ出版	200312	9784789830423
真空管アンプ製作自由自在	長真弓	誠文堂新光社	200005	9784416100042
身近な電子回路:図解雑学	井上誠一	ナツメ社	200302	9784816334566
図解・使えるセンサ回路設計法	高橋久(1953-):菊池清明	総合電子出版社	200302	9784915449048
図解ModelSim実習:ゼロからわかるデジタル回路シミュレーション	堀桂太郎	森北出版	200503	9784627784017
図解はじめて学ぶ電気回路:驚くほど基本が身につく!	谷本正幸	ナツメ社	200602	9784816340574
図解はじめて学ぶ電子回路:驚くほど基本が身につく!	谷本正幸	ナツメ社	200602	9784816340581
図解わかる実践アナログ回路	武下博彦	総合電子出版社	200201	9784915449994
図解入門よくわかる最新電子回路の基本と仕組み:電子回路設計のための基礎講座	国島保治	秀和システム	200406	9784798007991
増幅回路と負帰還増幅	伊東規之	東京電機大学出版局	200605	9784501325206
電気回路がわかる本	飯田芳一	オーム社	200112	9784274035692
電子回路がわかる本	宇田川弘:飯高成男	オーム社	200110	9784274035623
電子回路シミュレータSPICE:実践編	遠坂俊昭	CQ出版	200406	9784789836296
電子回路の基礎	北野正雄	培風館	200010	9784563035532

学生教育用図書リスト医工学・医情報学専攻 医情報学コース

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
電子回路の講義と演習	杉本泰博:島健	日新出版	200304	9784817302106
電子回路を説明する英語:英文テクニカルライティング手法による	上田秀樹	工業調査会	200004	9784769370871
電子回路設計の基礎知識:電子回路の基本法則からトランジスタ/OPアンプ回路	塩沢修:村橋善光	CQ出版	200510	9784789837538
電子回路部品活用マニュアル. 第1集	トランジスタ技術special編集部	CQ出版	200507	9784789837521

学生教育用図書リスト医生命システム専攻

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
Adult Stem Cells	Turksen, Kursad (EDT)	Humana Pr Inc	200402	9781588291523
Advanced Flow Cytometry : Applications in Biological Research	Sobti, R. C. (EDT)/ Krishan, Awtar (EDT)	Kluwer Academic Pub	200310	9781402014840
Advances in Immunology : Advances in Immunology (Advances in Immunology)	Cantor, Harvey (EDT)/ Glimcher, Laurie (EDT)	Academic Pr	200405	9780120224838
Apoptosis : The Life and Death of Cells	Potten, C. S./ Wilson, James W.	Cambridge Univ Pr	200409	9780521626798
Atlas of Cell Organelles Fluorescence	Kohen, Elli (EDT)/ Santus, Rene/ Hirschberg, Joseph G./ Ozkutuk, Nuri/	CRC Pr I Llc	200401	9780849314407
Basic Cell Culture Protocols (Methods in Molecular Biology)	Helgason, Cheryl D. (EDT)/ Miller, Cindy L. (EDT)	Humana Pr Inc	200410	9781588292841
Calcium Signaling	Putney, James W. (EDT)	CRC Pr I Llc	200512	9780849327834
Cell Biology : A Short Course	Bolsover, Steven R. (EDT)/ Hyams, Jeremy S. (EDT)/ Shephard, Elizabeth	Wiley-Liss	200312	9780471263937
Cell Biology Protocols	Harris, J. Robin (EDT)/ Graham, John M. (EDT)/ Rickwood, David (EDT)	John Wiley & Sons Inc	200603	9780470847589
Cell Biology: A Laboratory Handbook	Celis, Julio E. (EDT)	Academic Pr	200601	9780121647308
Cell Cycle Control : Mechanisms and Protocols (Methods in Molecular Biology)	Humphrey, Tim (EDT)/ Brooks, Gavin (EDT)	Humana Pr Inc	200412	9781588291448
Cell Imaging Techniques : Methods and Protocols (Methods in Molecular Biology)	Taatjes, Douglas J. (EDT)/ Mossman, Brooke T. (EDT)	Humana Pr Inc	200511	9781588291578
Cell Migration : Developmental Methods and Protocols (Methods in Molecular Biology)	Guan, Jun-Lin (EDT)	Humana Pr Inc	200411	9781588293824
Cell Signalling	Hancock, John T.	Oxford Univ Pr	200504	9780199264674
Cell Surface Receptors : A Short Course on Theory and Methods	Limbird, Lee E.	SPRINGER, BERLIN	200400	9780387230696
Cells	Lewin, Benjamin (EDT)/ Cassimeris, Lynne (EDT)/ Lingappa, Vishwanath R	Jones & Bartlett	200610	9780763739058
Cellular Electron Microscopy (Methods in Cell Biology)	McIntosh, J. Richard (EDT)	Academic	200702	9780123706478
Culture of Animal Cells : A Manual of Basic Technique	Freshney, R. Ian	Wiley-Liss	200507	9780471453291
Culture of Cells for Tissue Engineering (Culture of Specialized Cells)	Vunjak-Novakovic, Gordana, Ph.D. (EDT)/ Feshney, R. Ian, Ph.D. (EDT)/	Wiley-Liss	200602	9780471629351
Cytometry : New Developments (Methods in Cell Biology)	Darzynkiewicz, Zbigniew (EDT)/ Roederer, Mario (EDT)/ Tanke, Hans (EDT)	Academic Pr	200411	9780125641708
Digital Microscopy : A Second Edition of Video Microscopy (Methods in Cell Biology)	Sluder, Greenfield (EDT)/ Wolf, David E. (EDT)	Academic Pr	200312	9780125641692
Drosophila Cytogenetics Protocols (Methods in Molecular Biology (Clifton, N.J.), V. 247.)	Henderson, Daryl S. (EDT)	Humana Pr Inc	200311	9781588290502
Endosomes	Dikic, Ivan (EDT)	Springer	200610	9780387399508
Fine-Tuning of RNA Functions by Modification and Editing (Topics in Current Genetics Vol.12)	Ed. by Henri Grosjean	Springer	200500	9783540244950
Flow Cytometry Protocols (Methods in Molecular Biology (Clifton, N.J.), V. 263.)	Hawley, Teresa S. (EDT)/ Hawley, Robert G. (EDT)	Humana Pr Inc	200403	9781588292353
Functional Metabolism : Regulation and Adaptation	Storey, K. B. (EDT)	Wiley-Liss	200408	9780471410904
Functional Tissue Engineering	Ed. by Farshid Guilak, David L. Butler, Steven A. Goldstein et al.	SPRINGER, BERLIN	200400	9780387220130
Functional Tissue Engineering	Ed. by Farshid Guilak, Davil L. Butler, Steven A. Goldstein et al.	SPRINGER, BERLIN	200300	9780387955537
Gene and Cell Therapy : Therapeutic Mechanisms and Strategies	Templeton, Nancy Smyth (EDT)	Marcel Dekker Inc	200312	9780824741044
Gene Delivery to Mammalian Cells : Nonviral Gene Transfer Techniques (Methods in Molecular Biology)	Heiser, William C. (EDT)	Humana Pr Inc	200311	9781588290861
Gene Delivery to Mammalian Cells : Viral Gene Transfer Techniques (Methods in Molecular Biology)	Heiser, William C. (EDT)	Humana Pr Inc	200311	9781588290953
Glial Cell Function (Progress in Brain Research)	Castellano, Bernardo (EDT)/ Nieto-Sampedro, Manuel (EDT)	Elsevier Science Ltd	200309	9780444514868

学生教育用図書リスト医生命システム専攻

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
Handbook of Cell Signaling	Bradshaw, Ralph A. (EDT)	Academic Pr	200312	9780121245511
Handbook of Cell Signaling (3-Volume Set)	Bradshaw, Ralph A. (EDT)/ Dennis, Edward A. (EDT)	Academic Pr	200310	9780121245467
Handbook of Stem Cells	Lanza, Robert/ Gearhart, John/ Hogan, Brigid (EDT)	Academic Pr	200410	9780124366435
International Review of Cytology : A Survey of Cell Biology (International Review of Cytology)	Jeon, Kwang W.	Academic Pr	200404	9780123646378
Lipid Metabolism and Membrane Biogenesis (Topics in Current Physics Vol.6)	Ed. by Guenther Daum	SPRINGER, BERLIN	200400	9783540207528
Live Cell Imaging	Goldman, Robert D. (EDT)/ Spector, David L. (EDT)	Cold Spring Harbor Laboratory Pr	200411	9780879696832
Mechanics of Motor Proteins and the Cytoskeleton -- paperback	Howard, Jonathon	Sinauer Associates Inc.,u.s.	200512	9780878933334
Membrane Dynamics and Domains (Subcellular Biochemistry)	Quinn, Peter J. (EDT)	Plenum Pub Corp	200407	9780306484254
Membrane Microdomain Signaling : Lipid Rafts in Biology and Medicine	Mattson, Mark P. (EDT)	Humana Pr Inc	200410	9781588293541
Membrane Trafficking in Viral Replication (Current Topics in Microbiology and Immunology Vol.285)	Ed. by M. Marsh	SPRINGER, BERLIN	200400	9783540214304
Methods in Cell Biology : Cumulative Index, Volumes 53-71 (Methods in Cell Biology)	Wilson, Leslie (EDT)/ Matsudaira, Paul (EDT)	Academic Pr	200311	9780124802810
Methods in Cell Biology : Intermediate Filament Cytoskeleton (Methods in Cell Biology)	Omary, M. Bishr (EDT)/ Coulombe, Pierre A. (EDT)	Academic Pr	200412	9780125641739
Molecular Mechanisms of Exocytosis	Regazzi, Romano (EDT)	Springer	200610	9780387399607
Molecular Mechanisms of Programmed Cell Death	International Symposium on Programmed Cell Death 2002 Shanghai, china/	Plenum Pub Corp	200401	9780306477782
Neural Stem Cells for Brain and Spinal Cord Repair (Contemporary Neuroscience)	Zigova, Tanja (EDT)/ Snyder, Evan Y. (EDT)/ Sanberg, Paul R. (EDT)	Humana Pr Inc	200212	9781588290038
Neurodegeneration and Prion Disease	Ed. by D. R. Brown	Springer	200500	9780387239224
Neuroglia	Kettenmann, Helmut (EDT)/ Ransom, Bruce R. (EDT)	Oxford Univ Pr	200410	9780195152227
Non-Neuronal Cells of the Nervous System (3-Volume Set) : Function and Dysfunction (Advances in Molecular and Cell Biology)	Hertz, Leif (EDT)	Elsevier Science Ltd	200312	9780444514516
Optical Imaging Techniques in Cell Biology	Cox, Guy	CRC Pr I Llc	200701	9780849339196
Plant Cell Biology	Dashek, William V. (EDT)/ Harrison, Marcia (EDT)	Science Pub Inc	200606	9781578084081
Principles of Cellular Engineering : Understanding the Biomolecular Interface	King, Michael R. (EDT)	Academic Pr	200601	9780123693921
Prion Biology and Diseases (Cold Spring Harbor Monograph Series)	Prusiner, Stanley B. (EDT)	Cold Spring Harbor Laboratory Pr	200312	9780879696931
Protein Trafficking in Neurons	Bean, Andrew J., Ph.D. (EDT)	Academic Pr	200610	9780123694379
Short Protocols in Cell Biology Science : A Compendium of Methods from Current Protocols in Cell Biology	Bonifacino, Juan S. (EDT)/ Dasso, Mary (EDT)/ Harford, Joe B. (EDT)/ L	John Wiley & Sons Inc	200312	9780471483397
Signal Transduction	Gomperts, Bastien D./ Kramer, Ijsbrand M./ Tatham, Peter E. R.	Academic Pr	200310	9780122896323
Stem Cells : From Benchtop to Bedside	Bongso, Ariff (EDT)/ Lee, Eng Hin (EDT)/ Brenner, Sydney (FWD)/ Yeo, P	World Scientific Pub Co Inc	200510	9789812561268
Stem Cells : Nuclear Reprogramming and Therapeutic Applications (Ciba Foundation Symposia)	Novartis Foundation Symposium/ Bock, Gregory (EDT)/ Goode, Jamie (EDT)	John Wiley & Sons Inc	200504	9780470091432
Stem Cells in the Nervous System: Functional and Clinical Implications [English]		Springer	200400	9783540205586
Systems Biology : Applications and Perspectives (Ernst Schering Research Foundation Workshop)	Bringmann, Peter (EDT)/ Butcher W. (et al., EDT)	Springer	200701	9783540313380
The Cell : A Molecular Approach	Cooper, Geoffrey M./ Hausman, Robert E.	Sinauer Assoc.	200606	9780878932191
The Cell Cycle: Principles of Control	Morgan, David O.	O U P	200609	9780199206100
The Physiology of Excitable Cells	Aidley, David J.	Cambridge Univ Pr	199808	9780521574150

学生教育用図書リスト医生命システム専攻

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
Bioanalytical Chemistry	Manz, Andreas/ Pamme, Nicole/ Iossifidis, Dimitri	Imperial College Pr	200411	9781860943713
Biosensors : Kinetics of Binding and Dissociation Using Fractals	Sadana, Ajit (EDT)	Elsevier Science Ltd	200312	9780444515124
Chemical Analysis : Modern Instrumentation Methods and Techniques	Rouessac, Francis/ Rouessac, Annick	John Wiley & Sons Inc	200704	9780470859025
Fluorescence Spectroscopy in Biology : Advanced Methods and their Applications to membranes, Proteins, DNA, and Cells (Springer Series on Fluorescence Vol.3)	Ed. by M. Hof, R. Hutterer and V. Fidler	SPRINGER, BERLIN	200400	9783540223382
Good Clinical, Laboratory and Manufacturing Practices : Techniques for the QA Professional	Carson, P. (EDT)/ Dent, N. (EDT)	Royal Soc. of Chemistry	200703	9780854048342
Immunoassay and Other Bioanalytical Techniques	Emon, Jeanette M. Van (EDT)	CRC Pr I Llc	200612	9780849339424
Metabolome Analysis : An Introduction (Wiley - Interscience Series on Mass Spectrometry)	Villas-boas, Silas G./ Roessner, Ute/ Hansen, Michael A. E./ Smedsgaar	Wiley-Interscience	200702	9780471743446
Microfluidic Lab-on-a-chip for Chemical and Biological Analysis and Discovery (Chromatographic Science)	Li, Paul C. H.	Saint Lucie Pr	200510	9781574445725
Piezoelectric Sensors (Springer Series on Chemical Sensors and Biosensors)	Steinem, Claudia (EDT)/ Janshoff, Andreas (EDT)	Springer	200701	9783540365679
Proteomics & Peptidomics (Comprehensive Analytical Chemistry)	Marko-Varga, Gyorgy A.	Elsevier Science Ltd	200603	9780444518101
Quality Assurance in the Analytical Chemistry Laboratory	Hibbert, D. Brynn	O. U. P. NY	200612	9780195162134
Redox Proteomics : From Protein Modifications to Cellular Dysfunction and Disease (Wiley - Interscience Series on Mass Spectrometry)	Dalle-donne, Isabella (EDT)/ Scaloni, Andrea (EDT)/ Butterfield, D. Al	Wiley-Interscience	200606	9780471723455
Samples, From the Patient to the Laboratory : The impact of preanalytical variables on the quality of laboratory results	By Walter G. Guder, Sheshadri Narayanan, Hermann Wissner et al.	GI T VERLAG	200200	9783527309818
Separation Methods in Proteomics	Smejkal, Gary B. (EDT)/ Lazarev, Alexander (EDT)	Marcel Dekker Inc	200512	9780824726997
The Handbook of Metabonomics and Metabolomics	Lindon, John C. (EDT)/ Nicholson, Jeremy K. (EDT)/ Holmes, Elaine (EDT)	Elsevier Science Ltd	200701	9780444528414
Two-Dimensional Correlation Spectroscopy : Applications in Vibrational and Optical Spectroscopy	Noda, Isao/ Ozaki, Yukihiro	John Wiley & Sons Inc	200412	9780471623915
Biomarkers in Clinical Drug Development (Drugs and the Pharmaceutical Sciences)	Bloom, John C. (EDT)/ Dean, Robert Allen (EDT)	Informa Healthcare	200305	9780824740269
Cardiovascular Biomarkers : Pathophysiology and Disease Management (Contemporary Cardiology)	Morrow, David A., M.D. (EDT)/ Antman, Elliot, M.D. (FWD)	Humana Pr Inc	200606	9781588295262
Developing Biomarker-Based Tools for Cancer Screening, Diagnosis, and Treatment : The State of the Science, Evaluation, Implementation, and Economics	Patlak, Margie/ Nass, Sharyl J.	Natl Academy Pr	200610	9780309101349
Leading the Translational Research in Biomarkers : Book Edition of Cancer Biomarkers - Ncis Early Detection Research Network (4th Annual Scientific Wo	Srivastava, S. (EDT)	IOS Pr.	200612	9781586037116
Oxidative Stress Biomarkers and Antioxidant Protocols (Methods in Molecular Biology)	Armstrong, Donald (EDT)	Humana Pr Inc	200204	9780896038509
Use of Biomarkers for Environmental Quality Assessment	Lagadic, Laurent (EDT)/ Caquet, Thierry (EDT)/ Amiaard, Jean-Claude (E	Science Pub Inc	200006	9781578080953
ISOに準拠した環境計測機器の理論と使い方	ISO環境計測研究会	工学図書	199610	9784769203681
アンチエイジングと機能性食品 今なぜバイオマーカーか	吉川敏一/監修 大沢俊彦/監修	シーエムシー出版	2006	9784882315780
がん予防食品開発の新展開 予防医学におけるバイオマーカーの評価システム	大沢 俊彦 (著)	シーエムシー出版 (2005/05)	2005	9784882314998
環境サイトアセスメントフェイズ1・2技術マニュアル	ズデネック・ヘジャラー:地盤環境技術研究センター	地盤環境技術研究センター(発売:鹿島出版会)	200301	9784306085008
廃棄物最終処分場環境影響評価マニュアル		廃棄物研究財団(発売:環境新聞社)	199911	9784905622543
Advanced Techniques in Diagnostic Microbiology	Ed. by Y. Tang and C. W. Stratton	SPRINGER, BERLIN	200600	9780387297415
Antimicrobial Agents : Antibacterials and Antifungals	Bryskier, Andre, M.D. (EDT)	Amer Soc for Microbiology	200509	9781555812379
Antimicrobial Resistance in Bacteria of Animal Origin	Aarestrup, Frank M. (EDT)	Amer Society for Microbiology	200511	9781555813062
Bacterial and Bacteriophage Genetics	Birge, Edward A.	Springer	200500	9780387239194
Bergey's Manual of Systematic Bacteriology : Vol.2 - The Proteobacteria, Part A	Garrity, George (EDT)	Springer	200505	9780387241432

学生教育用図書リスト医生命システム専攻

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
Cellular Microbiology	Cossart, Pascale (EDT)/ Boquet, Patrice (EDT)/ Normark, Staffan (EDT)	Amer Soc for Microbiology	200501	9781555813024
Comprehensive Sourcebook of Bacterial Protein Toxins	Alouf, Joseph E. (EDT)/ Popoff, Michel R. (EDT)	Academic Pr	200601	9780120884452
Molecular Microbiology : Diagnostic Principles and Practice	Persing, David H. (EDT)/ Tenover, Fred C. (EDT)/ Versalovic, James (ED)	Amer Society for Microbiology	200312	9781555812218
The Bacterial Chromosome	Higgins, N. Patrick (EDT)	Amer Society for Microbiology	200411	9781555812324
The Prokaryotes - A Handbook on the Biology of Bacteria, Vol. 2: Ecophysiology and Biochemistry	Falkow, S./ Rosenberg, E./ Schleifer, K.-H. (Eds.)	Springer	200610	9780387254920
Bioinformatics and Drug Discovery (Methods in Molecular Biology)	Larson, Richard S. (EDT)	Humana Pr Inc	200510	9781588293466
Medicinal Chemistry : A Molecular and Biochemical Approach	Nogray, Thomas/ Weaver, Donald F.	Oxford Univ Pr	200508	9780195104561
Therapeutic Proteins : Methods and Protocols (Methods in Molecular Biology)	Smales, C. Mark (EDT)/ James, David C. (EDT)	Humana Pr Inc	200508	9781588293909
Cancer Therapy : Molecular Targets in Tumour-Host Interactions	Weber, Georg F. (EDT)	Routledge	200507	9781904933113
Cell-penetrating Peptides : Handbook of	Langel, Ulo (EDT)	CRC Pr I Llc	200608	9780849350900
G Protein-coupled Receptors as Drug Targets : Analysis of Activation and Constitutive Activity (Methods and Principles in Medicinal Chemistry Vol.24)	Ed. by Roland Seifert, Thomas Wieland, Raimund Mannhold et al.	WILEY-VCH	200500	9783527308194
G Protein-Coupled Receptors in Drug Discovery (Drug Discovery)	Lundstrom, Kenneth H. (EDT)/ Chiu, Mark L. (EDT)	CRC Pr I Llc	200507	9780824725730
Goodman & Gilman's the Pharmacological Basis of Therapeutics (Goodman and Gilman's the Pharmacological Basis of Therapeutics)	Brunton, Laurence L., Ph.D. (EDT)/ Lazo, John S. (EDT)/ Parker, Keith	McGraw-Hill	200509	9780071422802
Medicinal Chemistry : Chemistry and Molecular Aspects of Drug Design and Action	Kourounakis, P. N./ Rekkas, E. A.	CRC Pr I Llc	200708	9780849390067
Protein Tyrosine Kinases : From Inhibitors to Useful Drugs (Cancer Drug Discovery and Development)	Fabbro, Doriano, Ph.D. (EDT)/ McCormick, Frank (EDT)	Humana Pr Inc	200509	9781588293848
Therapeutic Peptides and Proteins : Formulation, Processing, and Delivery Systems	Banga, Ajay K.	CRC Pr I Llc	200509	9780849316302
EBM医学英語論文の書き方・発表の仕方		医学書院	2001.03	4260136496
StatView -医学-統計マニュアル スタットビュー5.0対応版 改訂第2版		真興交易医書出版部	1999.06	4880034932
アウトドアライフ救急マニュアル-いざというときに役に立つ救急の知識(第2版)	太田 祥一	荘道社	2002	9784915878237
新しい産科学—生殖医療から周産期医療まで	鈴木 薫	名古屋大学出版会	2002	9784815804343
アトラス応急処置マニュアル(原書第8版)	山本 保博 他監訳	南江堂	2004	9784524236411
アンダーソン病理学カラーアトラス	山口 和克 監訳	MEDSI	2001	9784895922883
アンチエイジング医学の基礎と臨床	日本抗加齢医学会専門医 ・指導士認定委員会 編	メジカルビュー社	2004	9784758300094
医学英語読解15のポイント		メジカルビュー	2000.09	4895539199
医学英語の基本用語と表現 これだけは知っておきたい 増補改訂版		メジカルビュー	2004.02	4775830405X
医学概論—改訂版<臨床工学シリーズ1>	江部 充 他	コロナ社	2002	9784339071245
医科薬理学(第4版)	遠藤 政夫 他編	南山堂	2005	9784525140441
医系 免疫学(改訂第9版)	矢田 純一	中外医学社	2005	9784498006720
遺伝子工学実験ノート 下 改訂		羊土社	2001.03	4897069157
遺伝子工学実験ノート 上 改訂		羊土社	2001.03	4897069149
医薬英語用例辞典—A Dictionary for Writing Pharmaceutical English	山崎 幹夫	丸善	1996	9784621042212
医療従事者・関係者の実践統計学 StatView 4.0を使って		真興交易医書出版部	2000.10	4880036382

学生教育用図書リスト医生命システム専攻

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
インテグラル理論から考える女性の骨盤底疾患	P.P.ペトロス	シュプリンガー・ジャパン	2006	9784431711667
解剖学 解剖学 続巻－組織学・発生学(第10版)	森 優 他	金原出版	1991	9784307050227
解剖学 解剖学(1)－総説・骨学・靭帯学・筋学(第11版)	森 於菟 他	金原出版	1982	9784307003414
解剖学 解剖学(2)－脈管学・神経系(第11版)(平沢 興)	岡本 道雄 改訂	金原出版	1982	9784307003421
解剖学 解剖学(3)－感覚器学・内臓学(第11版)	山田 英智 改訂	金原出版	1982	9784307003438
科学者のための英文手紙の書き方		朝倉書店	1984.08	4254100388
カラーアトラス マウス組織学	多田 伸彦	学際企画	2004	9784906514502
癌取扱い規約 胃癌取扱い規約(第13版)	日本胃癌学会 編	金原出版	1999	9784307201407
癌取扱い規約 大腸癌取扱い規約(第7版)	大腸癌研究会 編	金原出版	2006	9784307202213
癌取扱い規約 臨床・病理 食道癌取扱い規約(第9版)	日本食道疾患研究会 編	金原出版	1999	9784307201384
がんのベーシックサイエンス 第2版		MEDSI	2006.11	4895924602
基準病理学 各論	青木 重久 他	南江堂	1992	9784524216062
基準病理学 総論(改訂第2版)	青木 重久 他	南江堂	1995	9784524209194
基礎医学統計学 改訂第5版		南江堂	2004.04	4524235590
顕微鏡の使い方ノート 初めての観察から高度な顕微鏡の使い方まで 改訂		羊土社	2003.04	4897069173
最新内科学大系 第6巻 肥満症、臨床栄養	松沢 佑次 他	中山書店	1995	9784521406411
最新内科学大系 第8巻 糖質・アミノ酸代謝異常	野中 共平 他	中山書店	1996	9784521406718
再生医学・再生医療<現代化学増刊 41>	室田 誠逸 編	東京化学同人	2002	9784807913411
細胞骨格と細胞運動－その制御のメカニズム	竹縄 忠臣 編	シュプリンガー・ジャパン	2002	9784431709749
細胞培養入門ノート		羊土社	1999.01	4897069106
実験動物学	田嶋 嘉雄 監	朝倉書店	1991	9784254300451
実験動物学	谷口 博一	医歯薬出版	1997	9784263222201
消化器学<講義録>	上西 紀夫 他編	メジカルビュー社	2005	9784758300582
人工臓器用語解説集	日本人工臓器学会	金原出版	1991	9784307770712
新生理学(第4版)	小幡 邦彦 他	文光堂	2003	9784830602214
人体系統解剖学	吉川 文雄	南山堂	1984	9784525100612
新版 手術室研修医マニュアル	吉野 肇一	診断と治療社	2006	9784787813701
新病理学各論(第3版)<Qシリーズ>	桜井 勇 監	日本医事新報社	2002	9784784910342
新病理学総論(第3版)<Qシリーズ>	桜井 勇 監	日本医事新報社	2002	9784784910281
新臨床外科学		医学書院	2006.07	4260000969
スタンダード微生物学－保健微生物学・感染症学 <スタンダードシリーズ>	土肥 義胤 他編	文光堂	2005	9784830605161
ステッドマン医学略語辞典	高久 史磨	メジカルビュー社	2001	9784895539982

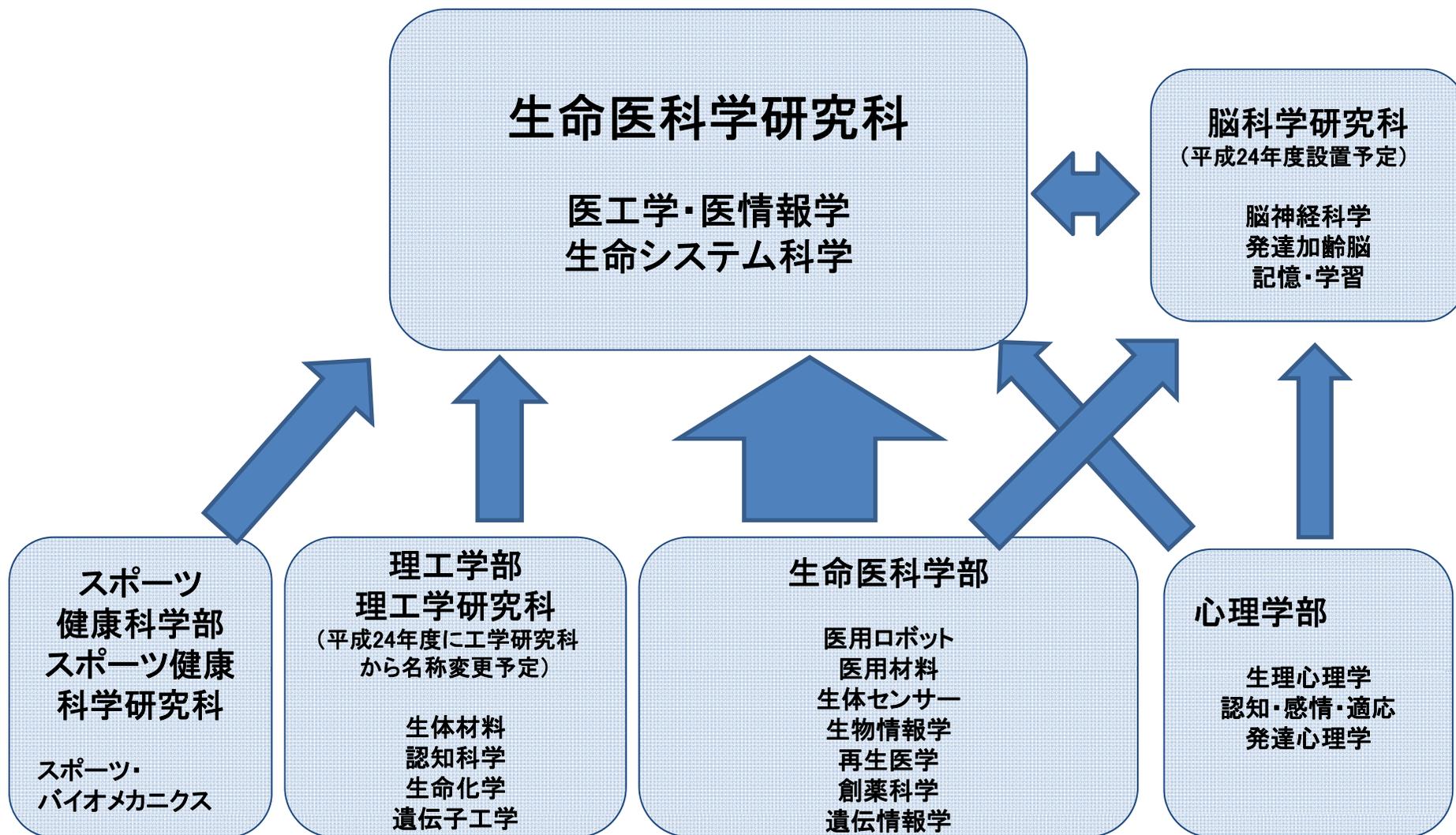
学生教育用図書リスト医生命システム専攻

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
生化学—分子から病態まで	香川 靖雄 編	東京化学同人	2000	9784807905119
総合内科		MEDSI	2006.04	4895924408
組織移植—採取・保存・使用技術マニュアル	北村 惣一郎	日本医学館	2001	9784890444878
内科学 合本		朝倉書店	2003.03	425432202X
内科学 分冊版		朝倉書店	2003.03	4254322038
入門組織学	牛木 辰男	南江堂	1989	9784524211340
バイオ研究はじめの一歩 ゼロから学ぶ基礎知識と実践的スキル		羊土社	2000.03	4897069130
バイオ試薬調整ポケットマニュアル 欲しい溶液・試薬がすぐつくれるデータと基本操作		羊土社	2003.12	4897068754
発生・再生イラストマップ		羊土社	2005.12	489706581X
発生学アトラス	塩田 浩平 訳	文光堂	1997	9784830600234
発生における細胞増殖制御	竹内 隆 他編	シュプリンガー・ジャパン	2004	9784431710318
標準組織学 各論(第3版)	藤田 尚男 他	医学書院	1992	9784260100533
標準組織学 総論(第4版)	藤田 尚男 他	医学書院	2002	9784260100731
病理学／病理組織細胞学	新臨床検査技師教育研究会	医歯薬出版	2004	9784263225639
分子生物学実験シリーズ 図・写真で観る発生・再生実験マニュアル<遺伝子医学別冊>	安田 國雄 編	メディカルドゥ	2002	9784944157969
ムーア人体発生学(原著第6版)	瀬口 春道 監訳	医歯薬出版	1977	9784263201503
優しい遺伝子工学 改訂2版		日本医事新報社	1998.03	4784930221
臨床消化器病学	石井 裕正 他編	朝倉書店	2005	9784254322064
わかりやすい肝臓学—症例から学ぶ肝・胆道疾患の鑑別診断と治療	沖田 極	杏林書院	1994	9784764400283
アンチエイジングドック	吉川敏一(編)	診断と治療社	2007	9784787815231
アンチエイジング医学—その理論と実践—	吉川敏一(編)	診断と治療社	2006	9784787814821
フリーラジカルと老化予防食品	吉川敏一(編)	シーエムシー出版	2006	9784882318958
メラトニン研究の最近の進歩	メラトニン研究会(編)	星和書店	200402	9784791105304
健康食品のすべて—ナチュラルメディスン・データベース—	田中平三、門脇 孝、篠塚和正、清水俊雄、山田和彦(監訳)	同文書院	2006	9784810331493
口腔から実践するアンチエイジング医学	斎藤一郎	医歯薬出版	2006	9784263442203
Molecular biology of the cell 3ed	B Alberts et al eds.	Garland Publishing Inc.	1994	0815316194
From Neuron to brain 4ed	J Nicholls et al eds.	Sinauer Assoc Inc.	1999	9780878935826
Ion channels of excitable membranes 3ed	B Hille	Sinauer Assoc Inc.	200107	9780878933211
標準生理学 第6版	小澤他編	医学書院	2005	4260101374
The synaptic organization of the brain 3ed	G Shepherd ed.	Oxford University press	1990	
生命科学のための機器分析実験ハンドブック分光分析、顕微解析、磁気共鳴分析、質量分析、イメージング解析などのあらゆる分析機(実験医学別冊)(単行本)	西村 善文	羊土社(2007/07)	200708	9784758101691
タンパク質実験ハンドブック分離・精製、質量分析、抗体作製、分子間相互作用解析などの基本原理と最新プロトコール 総集編!	竹縄 忠臣(編集)	羊土社(2003/08)	200308	9784897063690

学生教育用図書リスト医生命システム専攻

書名	著者名	出版社	出版年月	ISBN
基礎分析化学	宗林由樹・向井浩	サイエンス社	200701	9784781911557
最新プロテオミクス・メタボロミクス質量分析の基礎からバイオ医薬への応用(細胞工学 別冊)(大型本)		秀潤社 (2007/07)	200707	9784879623560
磁気共鳴-ESR:電子スピンの分光学	山内淳	サイエンス社	200603	9784781911229
Advances in Applied Microbiology (Advances in Applied Microbiology)	Laskin, Allen I. (EDT)/ Bennett, Joan W. (EDT)/ Gadd, Geoffrey M. (EDT)	Academic Pr	200601	9780120026609
Fundamental Food Microbiology	Ray, Bibek	CRC Pr I Llc	200312	9780849316104
医科細菌学	吉川昌之介・笹川千尋	南江堂	200103	9784524220137
細菌学	竹田美文・林英生	朝倉書店	200205	9784254310825
微生物学:病原微生物の基礎	柳原保武・多村憲	南江堂	200610	9784524402175
薬学領域の微生物学・免疫学	入江昌親・黒田久寅	広川書店	200004	9784567522007
ゲノム創薬	坂田恒昭	薬事日報社	200508	9784840808538
ゲノム創薬と未来産業:バイオテクノロジー・ビジネスクラスターの形成へ	石川智久	エルゼビア・ジャパン	200308	9784860345082
最先端創薬:戦略的アプローチと先端的医薬品	長尾拓	共立出版	200009	9784320061385
創薬:薬物分子設計のコツ	長瀬博・山本尚	エルゼビア・ジャパン	200104	9784860342623
創薬をめざす医薬品化学	阿知波一雄・坂本正徳	広川書店	200202	9784567461443
創薬化学	野崎正勝・長瀬博	化学同人	199507	9784759802818
創薬化学	長野哲雄・夏苺英昭	東京化学同人	200402	9784807905843
創薬科学:生体構成分子から見た医薬品	石橋弘行	広川書店	200411	9784567462105
薬学生のための天然物化学	木村孟淳	南江堂	200409	9784524402038
グッドマン・ギルマン薬理学:薬物治療の基礎と臨床. 下巻	ルース・S. グッドマン:アルフレド・ギルマン	広川書店	199910	9784567496155
グッドマン・ギルマン薬理学:薬物治療の基礎と臨床. 上	ルース・S. グッドマン:アルフレド・ギルマン	広川書店	200306	9784567496162
グッドマン・ギルマン薬理学:薬物治療の基礎と臨床. 上巻	ルース・S. グッドマン:アルフレド・ギルマン	広川書店	199905	9784567496148
コンピュータ分子薬理学	P. M. ディーン:江崎俊之	地人書館	199112	9784805204016
ひと目でわかるスタチン系薬物の薬物相互作用	沢田康文:寺本民生	メディカルパースペクティブス	200410	9784944151097
阻害剤活用ハンドブック:作用機序・生理機能などの重要データがわかる	秋山徹:河府和義	羊土社	200609	9784758108065
薬理学マニュアル	高柳一成・中山貢一	南山堂	200205	9784525722746
臨床薬物動態学:臨床薬理学・薬物療法の基礎として	加藤隆一	南江堂	199204	9784524215621
Clinical Oncology, 3th ed.	Abeloff	Churchill	2004	0443066299
Surgery: Scientific Principles & Practice, 3th ed.	Greenfield	Lippincott WW	2001	0781722543
細胞機能と代謝マップ. 2	日本生化学会	東京化学同人	199810	9784807904822
細胞機能と代謝マップ. 1	日本生化学会	東京化学同人	199709	9784807904686
カーブ分子細胞生物学	ジェラルド・カーブ:山本正幸	東京化学同人	200003	9784807905126
生物学と医学をつなぐ分子細胞生物学	中江太治	丸善	199809	9784621045046
電子顕微鏡細胞組織アトラス	小川和朗:永野俊雄	朝倉書店	199512	9784254300505
細胞骨格と細胞運動:その制御のメカニズム	竹縄忠臣	シュプリンガー・フェアラーク東京	200207	9784431709749
細胞の形態形成の基本メカニズム	高井義美	金芳堂	200110	9784765310413

既設学部及び他研究科との関連図



生命医科学研究科委員会規程

2008年4月1日制定

2009年4月1日改正

(趣旨)

第1条 大学院学則第32条に基づき、この規程に生命医科学研究科委員会(以下研究科委員会という)に関する事項を定める。

(研究科長)

第2条 大学院学則第33条に基づき、研究科長は学部長が兼任する。

(組織)

第3条 研究科委員会は任期付教員を除く生命医科学研究科任用教授をもって構成する。

(構成員以外の出席)

第4条 生命医科学研究科の専任の准教授、任期付教員、客員教員および特別招聘客員教授は、研究科委員会に出席し、意見を述べることができる。

2 生命医科学研究科長が必要と認めたる者は、研究科委員会の了承を得て出席し、意見を述べるることができる。

(審議事項)

第5条 研究科委員会は生命医科学研究科に関する次の事項を審議する。

- (1) 教育研究に関する事項
- (2) 教育課程に関する事項
- (3) 教員の人事に関する事項
- (4) 学則、研究科諸規程に関する事項
- (5) 学生の入学、退学、休学、修了等に関する事項
- (6) 大学長から諮問された事項
- (7) 研究科委員会の組織および運営に関する事項
- (8) その他、研究科委員会が必要と認める事項

(研究科主任会)

第6条 研究科委員会は、第5条に関する議事運営を円滑におこなうため、研究科主任会をおく。

(開催)

第7条 研究科委員会は、研究科長がこれを招集し議長となる。

2 構成員の5分の1以上から付議事項を示して請求があったとき、研究科長はすみやかに研究科委員会を招集しなければならない。

3 研究科長に事故あるとき、必要な場合はあらかじめ研究科長の指名したものが議長となる。

(定足数および議決)

第8条 研究科委員会は出席可能教員(構成員から在外研究者、国内研究者、休職者を除く。以下同じ)の過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数の賛成をもって議決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

2 前項の規定にかかわらず、教員の人件、博士課程(前期課程)ならびに博士課程(後期課程)の修了判定の審議には、出席可能教員の3分の2以上の出席を必要とし、出席者の3分の2以上の賛成をもって議決する。

(改廃)

第9条 本規程の改廃は、研究科委員会の議を経て決定する。

附 則

本規程は、2009年4月1日から施行する。

大学院生命医科学研究科主任会に関する申合せ

2008年4月1日制定

(構成)

- 1 研究科主任会は、研究科長と大学院専攻教務主任により構成する。なお、研究科長は大学院専攻教務主任以外の教員の出席を求めることができる。

(目的)

- 2 研究科委員会規程第6条にもとづき、研究科主任会は次の事項を取扱う。
 - 研究科委員会規程第5条に関する議事運営を円滑におこなうため、提出事項の予備調整、整理、審査
 - 研究科委員会決定の実施、督励
 - 研究科委員会から委託された事項の決定、処理
 - 学部の各学科に準ずる領域との連絡調整ならびに情報集約
 - その他研究科長が必要と認めた事項

(運営)

- 3 研究科主任会は、研究科長が招集し、議長となる。

附 則

- (1) この申合せの改廃は、研究科委員会の議を経て決定する。
- (2) この申合せは、2008年4月1日から施行する。

生命医科学部・生命医科学研究科自己点検・評価委員会規程

2008年4月1日制定

(目的)

第1条 本規程は、同志社大学自己点検・評価規程第6条に基づき、生命医科学部・生命医科学研究科における教育研究活動等の自己点検・評価に関する事項を定める。

(任務)

第2条 生命医科学部・生命医科学研究科自己点検・評価委員会(以下「委員会」という。)の任務は、以下とする。

- (1) 第9条に定める項目について、自己点検及び評価を行う。
- (2) 4年ごとに、「自己点検・評価報告書」を作成し、公表する。
- (3) 前項報告書作成の基礎資料とするため、年度ごとに活動実績の報告を各教員に求める。
- (4) 前項報告内容は、対外的に公表された研究成果、学会における活動状況、公共機関における社会的な活動状況等とする。
- (5) 生命医科学部長・生命医科学研究科長(以下「学部長」という。)の指示に従い、認証評価機関による認証評価を受けるために必要な作業を行う。

(委員会の構成)

第3条 委員会は、学部長、教務主任、教務〔国際〕主任、教務〔入学〕主任、学生主任、研究主任、大学院専攻教務主任と学部長が任命する生命医科学部・生命医科学研究科専任教員若干名をもって構成する。

2 学部長は、同志社社員以外の者から特別委員を任命することができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会には、委員長及び副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、学部長がこれにあたる。
- 3 委員長は、副委員長を任命する。
- 4 委員長は、委員会を代表し、その業務を統括する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(特別委員の任務)

第5条 特別委員は、委員会の諸活動について、委員会と情報を共有する。

- 2 特別委員は、委員会に出席し、委員会の諸活動について説明を求め、意見を述べる。
- 3 特別委員は、講義を参観するなど、自己点検・評価のために必要な調査を行うことができる。

(生命医科学部・生命医科学研究科各種委員会との関係)

第6条 委員長は、本学部・研究科に設置されている各種委員会に対して、必要に応じて報告を求めることができる。

(委員の任期)

第7条 学部長が任命する委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 特別委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 委員に欠員が生じたときは、補充するものとする。補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第8条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会は、必要に応じて随時開催する。

3 委員会は、委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(自己点検・評価項目)

第9条 委員会が行う自己点検・評価の項目は以下である

(1) 理念・目的に関する事項

(2) 教育活動に関する事項

(3) 研究活動に関する事項

(4) 学生生活に関する事項

(5) 学術情報に関する事項

(6) 大学間連携・国際交流に関する事項

(7) 施設・設備に関する事項

(8) 社会との連携に関する事項

(9) 管理運営に関する事項

(10) 情報公開及び説明責任に関する事項

(11) その他本委員会が必要と認める事項

(雑則)

第10条 本規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第11条 委員会の事務は、生命医科学部・生命医科学研究科事務室が行う。

(改廃)

第12条 本規程の改廃は、生命医科学部教授会が行う。

附 則

1 本規程は、2008年4月1日から施行する。

2 第3条の規定にかかわらず、2008年4月1日から2009年3月31日までを任期とする学部長の任命による委員は、生命医科学部設置準備室長が任命する。

生命医科学研究科 F D 委員会規程

2008年4月1日制定

(目的)

第1条 生命医科学研究科におけるファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)を組織的に推進するため、生命医科学研究科FD委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(定義)

第2条 FDとは、教育の内容および方法の工夫、改善を図るための取り組みをいう。

(任務)

第3条 FD委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項について、審議し、その推進を図ることを任務とする。

- (1) FDの基本方針の策定に関する事項
- (2) 教員の教授方法の開発及び改善に関する事項
- (3) FDに係る研修会及び講習会の開催に関する事項
- (4) FDに係る調査及び研究に関する事項
- (5) 学生による授業評価についての企画、立案、実施、結果の分析等及びそのフィードバックに関する事項
- (6) 生命医科学研究科内におけるFDに関連する諸活動の支援と調整
- (7) その他FDに関する事項でFD委員会が必要と認めた事項

(委員会の構成)

第4条 FD委員会は、研究科長、大学院専攻教務主任と研究科長が任命する生命医科学研究科専任教員若干名の委員をもって構成する。

(委員長及び副委員長)

第5条 FD委員会には、委員長及び副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、研究科長がこれにあたる。
- 3 委員長は、副委員長を任命する。
- 4 委員長は、委員会を代表し、その業務を統括する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員の任期)

第6条 研究科長が任命する委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じたときは、補充するものとする。補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第7条 F D委員会は、委員長が召集し、その議長となる。

- 2 F D委員会は、必要に応じ、随時開催する。
- 3 F D委員会は、委員長が必要と認めるときは、F D委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
- 4 委員会は生命医科学部F D委員会と合同で開催することができる。

(雑則)

第8条 本規程に定めるもののほか、F D委員会の運営に必要な事項は、F D委員会が別に定める。

(事務)

第9条 F D委員会の事務は、生命医科学部・生命医科学研究科事務室が行う。

(改廃)

第10条 本規程の改廃は、生命医科学研究科委員会において決定する。

附 則

- 1 本規程は、2008年4月1日から施行する。
- 2 第4条の規定にかかわらず、2008年4月1日から2009年3月31日までを任期とする研究科長の任命による委員は、生命医科学部設置準備室長が任命する。

定年に関する規程等

○同志社就業規則（関係部分のみ抜粋）

<省略>

第10条 社員は、満65歳をもって定年退職するものとする。

2 前項退職者にして勤続25年に達したるもの、なお法人において在職を必要と認めたる場合退職手続完了後更に理事会の議を経て総長において専任教職員の待遇に準じ業務を嘱託することがある。

3 前項のほか在職中特に功労のあった者に対する待遇については、その都度理事会の議を経て総長においてこれを定める。

<省略>

附 則

1 第10条の本文については、(当分の間)大学院に關係する教授にして本法人が必要と認めたものに限りこれを適用しない。

2 臨時の契約により同志社の業務に従事する者の就業に関しては、別に定めるものの外はこの就業規則を準用する。

3 この規則は、1997年4月1日から施行する。

<以下省略>